

ネットワークの力で若者支援を

**K2** INTERNATIONAL GROUP

K2 インターナショナルグループ

資料1



# 1. 団体概要



人間の営みを支援し  
ともに生き、ともに成長する。  
私達のテーマです。

**私たちは、1989年より不登校・ひきこもり・発達障害など、  
生きづらさを抱える若者達の自立就労を支援し、  
共に生きる場を作ってきました。**

**貴方の周りに必ず居る若者たち。  
理解しづらい行動、自己表現が苦手で、傷つき、引きこもるか、  
病気に逃げ込むしか無い彼ら。  
生きづらさの中、もがき、苦しみ、自分のみならず周囲をも傷つけてしまう…  
そんな若者に対し、既存の教育や福祉サービスと共に連携しながら、  
民間ならではの力で支援していきます。**



# 3. 団体事業概要

## K2 自立へのステップメニュー



**自立、就労に向けたステップに合わせたプログラムを実施しています。**

# 4. 団体事業所マップ

## K2 インターナショナルグループマップ

-横浜・石巻・韓国・オーストラリア・ニュージーランド-

## K2 INTERNATIONAL GROUP MAP

-YOKOHAMA · ISHINOMAKI · KOREA · AUSTRALIA · NEW ZEALAND-

1F にこまる食堂	2F 子育てスポット くすくす	2F 放課後ドラマ ぼによ+	3F K2 オフィス	4F K2家族の会	4F ジャパニーズ ゴスペルチャーチ	屋上 K2ビーファーム
1F Nikomaru Project	2F Parenting Support Place "Kusu Kusu"	2F Dramatic After School "Ponyo+"	3F K2 Office	4F K2 Association Of Family	4F Japanese Gospel Church	RF K2 Bee Farm

アロハセントラルキッチン  
Aloha Central Kitchen  
@Minato General High School

お好み焼ころんぶす 石川町駅前店  
Okonomiyaki Columbus  
@Ishikawa-Cho Station Store

お好み焼ころんぶす 港南台駅前店  
Okonomiyaki Columbus  
@Kounandai Station Store

ころ餅・Colotako  
Japan · Korea  
Australia · New Zealand

よこはま聖書者自立塾 ジョブキャンプ  
Yokohama-style School For Inexperience  
"Job Camp"

若者自立塾等支援・小企業も応援  
するのぞもが荘  
Support Of Youth  
Evolution Breakthrough Project  
"Uramono-ichi"

湘南・横浜若者サポートステーション  
Shonan Yokohama Youth Support Station

金沢区青少年の地域活動拠点  
(カナカツ)  
The Kanazawa Area Youth The Center Of Activities For Youth

横浜いろは塾  
Yokohama Iroha Private-tutoring School

K2 インターナショナル  
石巻  
K2 International Ishinomaki

K2 インターナショナル  
韓国  
K2 International Korea

K2 インターナショナル  
ニュージーランド  
K2 International New Zealand

K2 インターナショナル  
オーストラリア  
K2 International Australia

横浜聖地霊園JIG墓所  
JIG Graveyard

**K2**  
International  
Group

Yokohama · Ishinomaki · Japan  
Sydney Australia · Auckland New Zealand · Seoul Korea

横浜の根岸を中心に、石巻や海外にも拠点を設けています。

## 5. 評価対象事業概要



### 厚生労働省委託の相談・自立支援事業所

#### 対象者

- ・働くことや自立に不安を抱えていたり、悩みをもつ15才～39才の若者

#### プログラム内容

- ・ 1. 面談
  - ・ 初回面談、継続面談、家族面談／臨床心理士／看護師面談、社会／精神保険福祉士面談、就労支援面談、キャリアカウンセラー面談、アフターフォロー面談など
- ・ 2. セミナー
  - ・ 就労支援セミナー(ビジネスマナーや求職活動など)、生活支援セミナー(金銭管理や栄養／衛生管理など)、自己分析、職業人講話など
- ・ 3. 体験活動
  - ・ ボランティア体験、就労体験、就農体験、有給職業訓練など
  - ・ ※就職活動支援として、各種企業とのマッチングやフォローアップ、情報共有なども行う。

**通所型で、面談・体験が中心。**

**ここをきっかけにK2本体のプログラムにつながる若者も多くいます。**

## 6. 本評価の背景・目的

---

▶厚生労働省が定めるサポートステーションの支援対象者には、「当事者の家族」は含まれていない

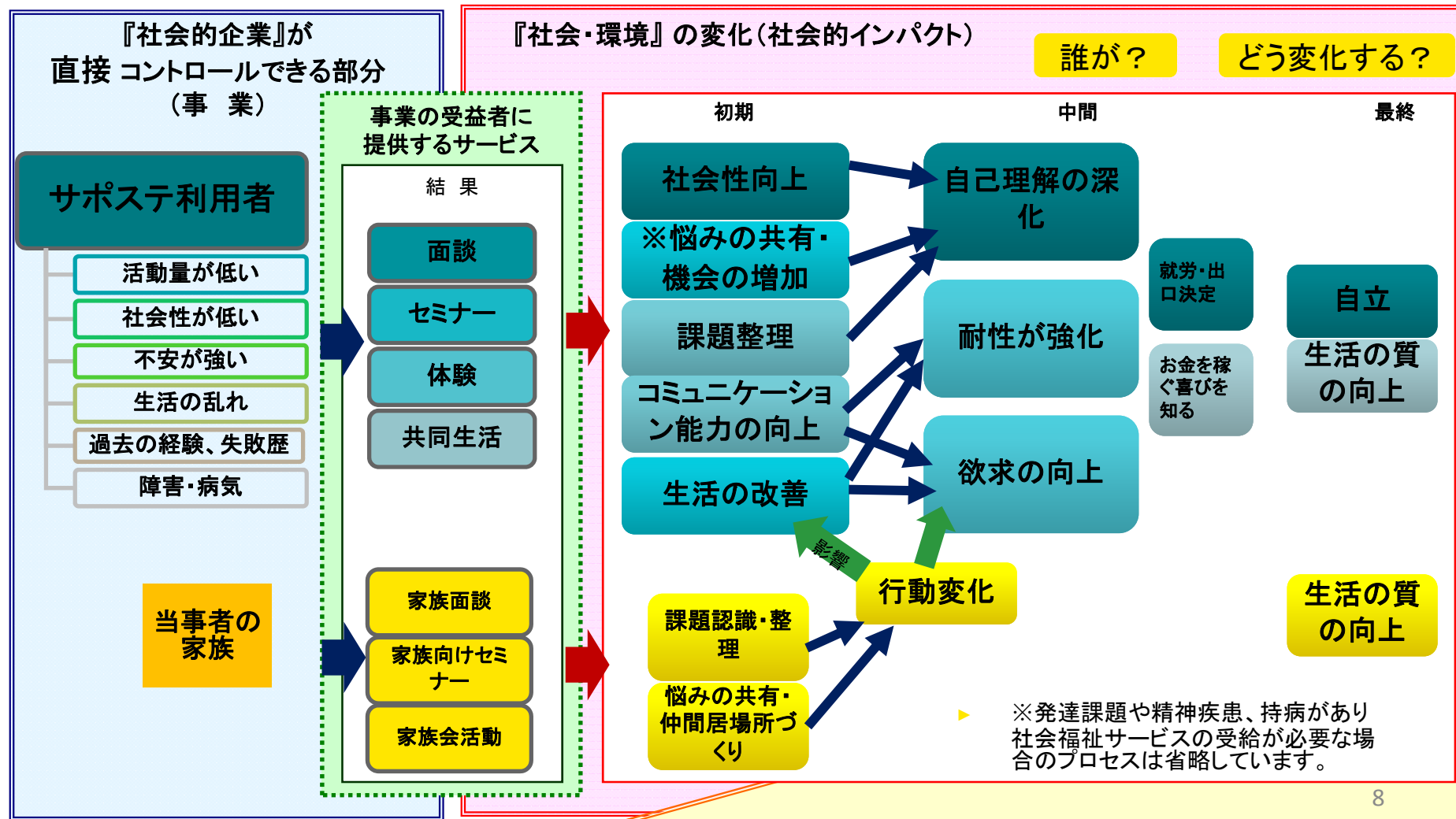
▶現場の実感として、本人の意識や行動変化には「家族の理解と支援」が重要であるという認識がある

▶支援対象者のデータを収集し、「家族の支援への関与の有無」による比較を行う事で、K2が独自に行ってきた「家族支援」の有効性を検証したい

検証結果で有効性が明らかになれば、現場では家族の関与の促し(=効果的な支援)に繋がり、またサポステの制度改革に向けたアピール材料にもなると考えています。

# 7. ロジックモデル (当事者主体)

社会的企業名	評価対象事業	評価目的	ステイクホルダー
株式会社K2インターナショナルジャパン	・湘南・横浜若者サポートステーション	・組織内に成果を共有 ⇒支援現場へのフィードバック ・自治体、支援者に対し「親の関与」の有効性を説明	・当事者 ・当事者の家族 ・自治体、事業主

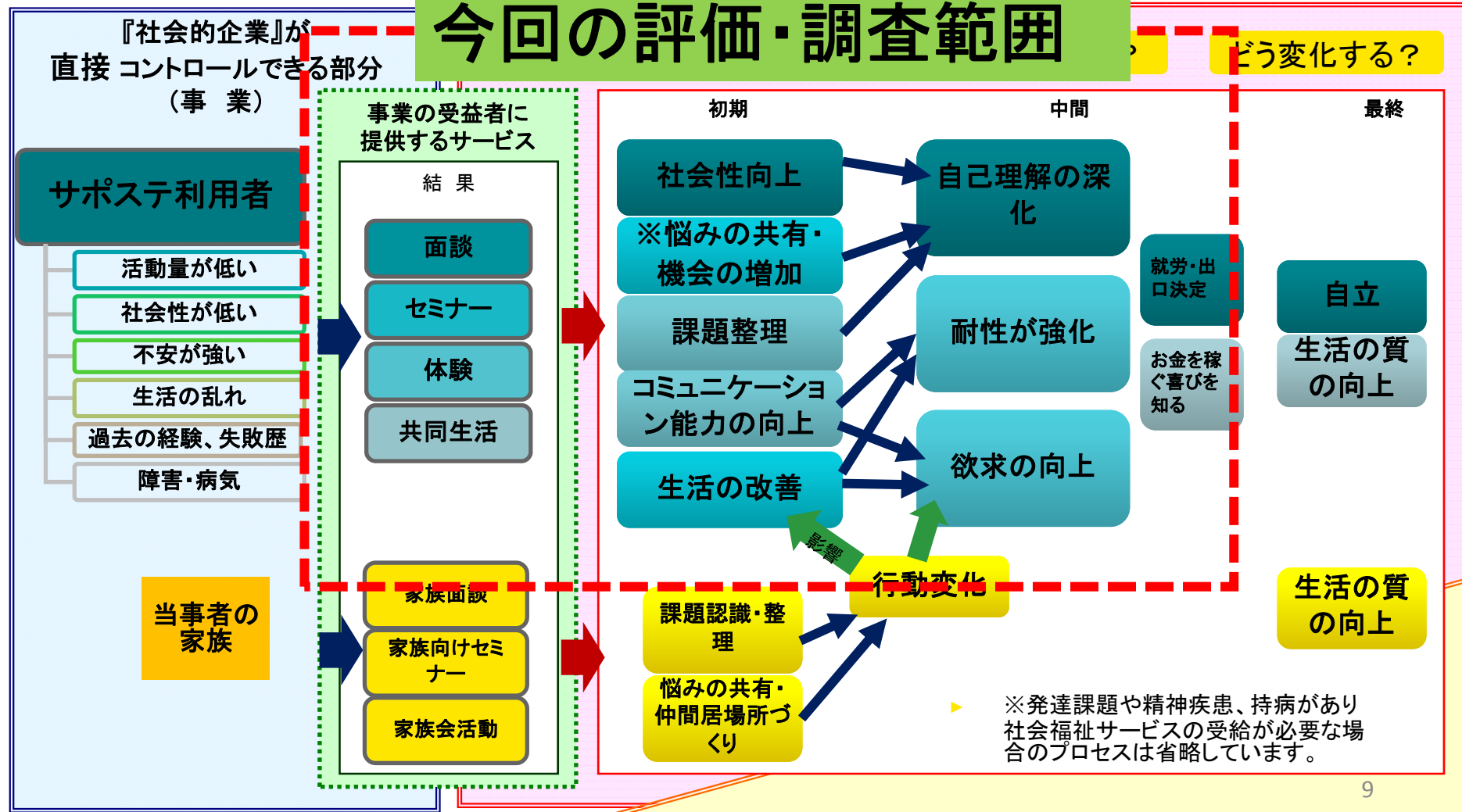




# 7. ロジックモデル (当事者主体)

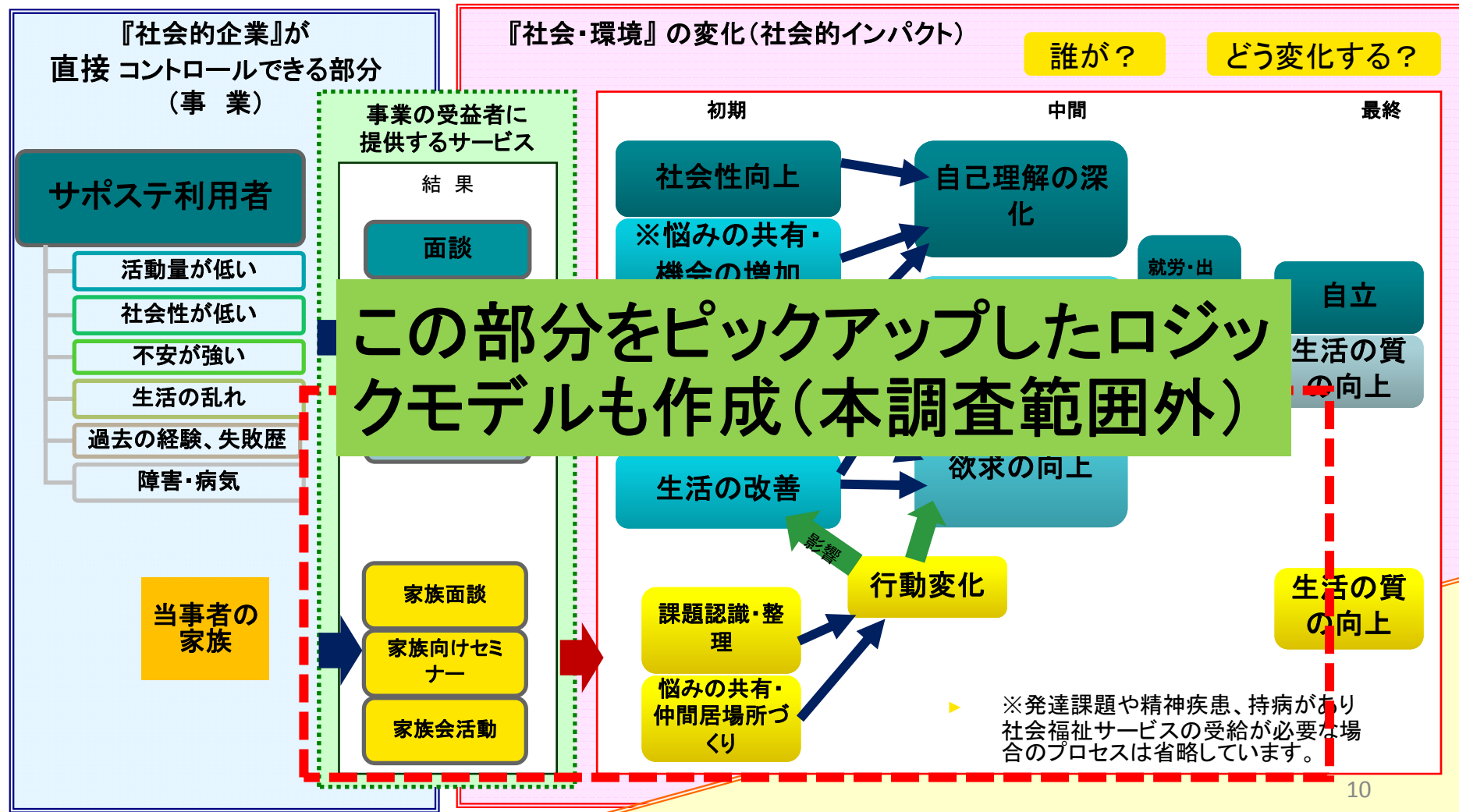
社会的企業名	評価対象事業	評価目的	ステイクホルダー
株式会社K2インターナショナルジャパン	・湘南・横浜若者サポートステーション	・組織内に成果を共有 ⇒支援現場へのフィードバック ・自治体、支援者に対し「親の関与」の有効性を説明	・当事者 ・当事者の家族 ・自治体、事業主

## 今回の評価・調査範囲

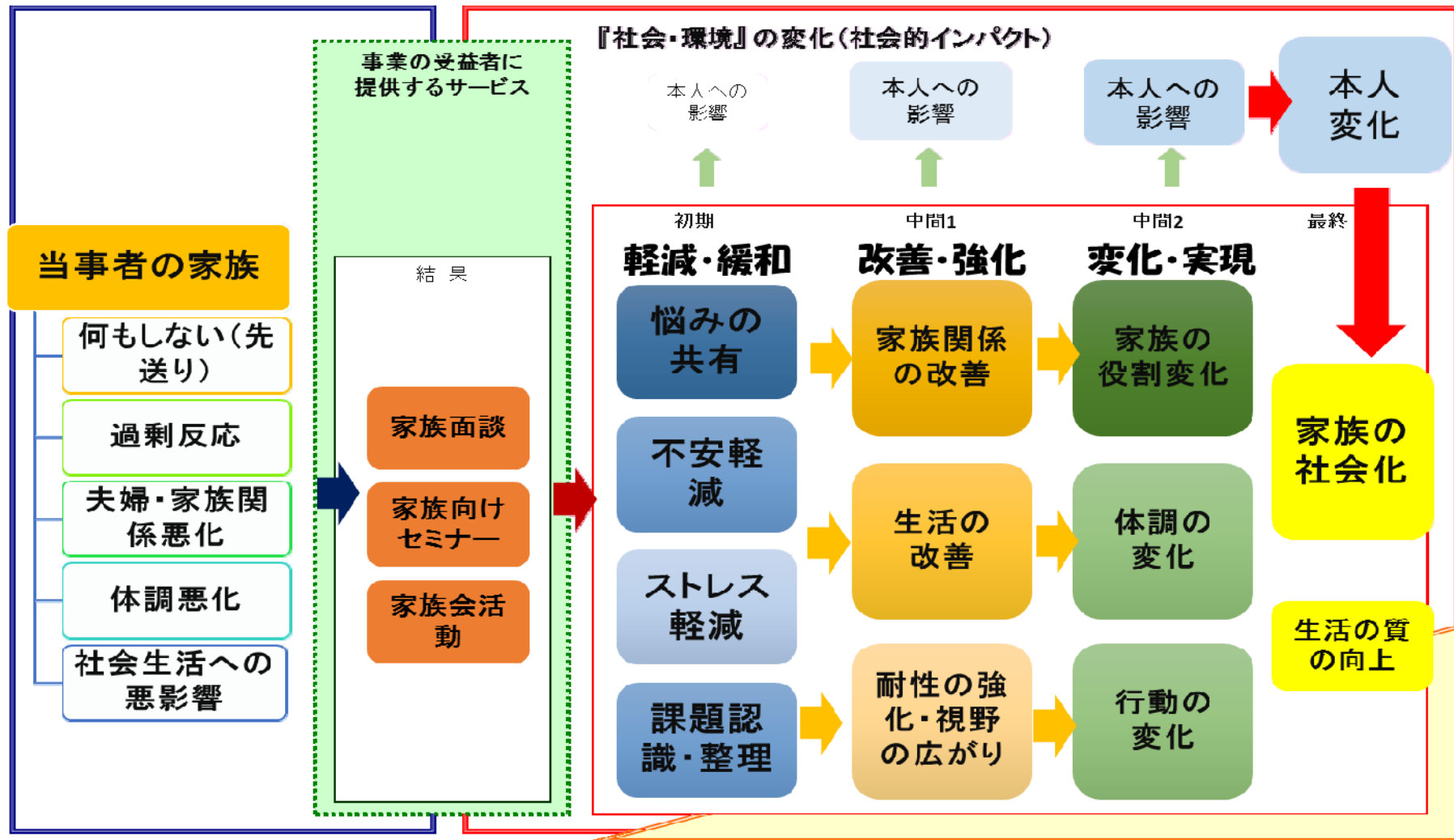


# 7. ロジックモデル (当事者主体)

社会的企業名	評価対象事業	評価目的	ステイクホルダー
株式会社K2インターナショナルジャパン	・湘南・横浜若者サポートステーション	・組織内に成果を共有 ⇒支援現場へのフィードバック ・自治体、支援者に対し「親の関与」の有効性を説明	・当事者 ・当事者の家族 ・自治体、事業主



## 7. ロジックモデル（家族主体） ※本調査範囲外



**家族の変化が本人に影響を与え、本人の変化につながる。**  
**それが最終的に家族全体の生活の質の向上、**  
**「家族の社会化」につながるという仮説をWSで確認。**

# 8. インパクトマップ 初期成果

結果・成果の別	ステイクホルダー 【誰が】	評価の問い 【どう変化するか】	測定方法	指標
①結果、②初期成果、 ③中期成果、④最終成果	誰が変化するのか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どこで・どうやって情報を収集するか？	どうやって測定するか？
初期成果	支援対象者	社会性が向上する	クラウド入力	挨拶 敬語の使用 適切な報連相 適切な身だしなみ
		悩みの共有ができ、その機会が増加する	支援対象者アンケート	【問1】悩みを相談できる相手の有無 【問2】対人関係の不安 【問3】働くことへの不安
		自身の課題が整理できる	クラウド入力	自己理解
			支援対象者アンケート	【問14】自己理解
		コミュニケーション能力が向上する	クラウド入力	他者との会話の機会 他者への興味 表情の変化
		生活の改善	クラウド入力	外出頻度 外出範囲 生活リズムの安定 食事リズム・バランスの安定 運動量の安定 家族関係の良好さ 健康状態の良好さ
支援対象者アンケート	【問4】外出機会の頻度 【問5】外出範囲 【問18】家族からの理解はあるか 【問19】家族からの支援はあるか			

## 8. インパクトマップ 中間～最終成果

結果・成果の別	ステイクホルダー【誰が】	評価の問い【どう変化するか】	測定方法	指標
①結果、②初期成果、 ③中期成果、④最終成果	誰が変化するか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どこで・どうやって情報を収集するか？ (アンケートの場合は設問内容案も)	どうやって測定するか？
中間成果	支援対象者	自己理解が深まる	クラウド入力	自己肯定感 自己理解 就業知識 自立意欲
			支援対象者アンケート	【問13】自己肯定感 【問14】自己理解 【問15】就業知識 【問17】自立意欲
		耐性が強まる	支援対象者アンケート	【問10】人のアドバイスを受容 【問6】現状の自分に対する満足度
		欲求が向上する	支援対象者アンケート	【問11】挑戦意欲 【問7】他人、異性への興味 【問8】物欲・金銭欲など前向きな欲求
最終成果	支援対象者	生活の質が向上する	支援対象者へのアンケート 面談実績	【問21】生活満足度
		社会的・経済的に自立する(サポート付き含む)	支援対象者へのアンケート 面談実績	社会的・経済的自立の状況

## 9. データ収集・分析方法 ～データ収集方針

### 1. 利用者活動実績データ **▶既存のデータ管理システムに調査項目を追加設定。**

対象者	27年度サポステ新規登録者で、3ヶ月以上支援を継続している当事者141名
実施期間	平成28年10月
調査項目概要	ロジックモデルの初期～中間アウトカムに設定した各項目について第三者からの視点で整理 ①属性情報(性別、生年月日、障害者手帳の有無等) ②インテーク時情報(外出機会、生活リズム、家族関係、社会スキル等) ③経過記録情報(インテーク時と同様の項目)
備考	セールフォースのクラウドシステムに支援者が情報を入力

### 2. 利用者向けアンケート **▶各設問、「初回来所時」と「現在」の2時点で確認。**

対象者	上記対象者141名に配布し、回収できた68名
実施期間	平成28年11月
調査項目概要	ロジックモデルの初期～中間アウトカムに設定した各項目について、本人主観でしか分かり得ない成果を中心に設問を設定。全21問から構成(相談の対象者、対人関係不安、外出頻度、身だしなみ、自己肯定感、就きたい職業イメージの有無等)
備考	アンケート調査票は支援者から手渡しで配布・回収 利用者活動実績データと紐付を実施

## 9. データ収集・分析方法 ～クラウドデータ入力画面

### 新経過記録-000308

新経過記録の詳細

編集 削除 コピー

利用者名		所有者	
作成者		新経過記録ID	
入力日			
備考			

---

▼生活面

外出機会を持っているか?  4 ある程度あてはまる

外出頻回が広がっているか?  3 どちらともいえない

生活リズムは安定しているか?  3 どちらともいえない

食事リズム・バランスは安定しているか?  3 どちらともいえない

運動量は安定しているか?  3 どちらともいえない

家族関係は良好か?  4 ある程度あてはまる

健康状態は良好か?  3 どちらともいえない

---

▼コミュニケーション

他者との会話の機会はあるか?  4 ある程度あてはまる

他者への興味はあるか?  4 ある程度あてはまる

表情の変化はあるか?  4 ある程度あてはまる

---

▼社会スキル一般常識

挨拶はできるか?  4 ある程度あてはまる

敬語は使えるか?  4 ある程度あてはまる

報道情報は適切にできるか?  4 ある程度あてはまる

身だしなみは適切か?  4 ある程度あてはまる

身だしなみの明確な変化

身だしなみの明確な変化(その他)

カスタムリンク

- フェロップ利用者
- ハタラボ利用者
- パン屋のオヤジ利用者
- トライ利用者
- Job core利用者
- Y-mac利用者
- MIK(石巻)利用者
- MIK(横浜)利用者
- HuHouse利用
- 自立援助ホーム利用者
- メンタルサポート利用者
- 横浜型ファーム利用者
- 横浜型拡充利用者

お知らせ

各設問、5段階もしくは0/1で評価する。  
同内容の設問を「インテーク記録(=初回来所時の記録)」のページにも新たに設定した。

▶「経過記録」=3ヶ月経過時点を入力する情報。今回追加した項目に関しては、今後データが積み重なっていく事となる。(要項目再検討)

## 9. データ収集・分析方法 ~アンケート調査票(一部抜粋)

### 利用者アンケート

はじめに

- このアンケート調査は、K2 グループの今後の支援プログラムを改善するために、利用者の現状を把握することを目的としています。回答は初回来所時(登録時)と現在の状況を伺う構成になっています。初回来所時を振り返っていただくとともに、現在の状況についてもご回答ください。
- なお、調査の結果は全て統計的に処理しますので、個々の回答者がどのように回答したのかは明らかになることはありません。
- 質問事項や選択肢について不明な点があれば、K2 事務局(045-750-0039)、またはご登録頂いているK2の事業所にお問い合わせください。
- 全ての質問に回答した後、11月18日(金)までに配布元の事業所までご提出ください。
- ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

1. あなたが、悩みを相談する人はどなたですか。該当する方全てにチェックしてください。

(初回来所時)	<input type="checkbox"/> 父親、 <input type="checkbox"/> 母親、 <input type="checkbox"/> 兄弟、 <input type="checkbox"/> おじ、 <input type="checkbox"/> おば、 <input type="checkbox"/> 祖父、 <input type="checkbox"/> 祖母
(現在)	<input type="checkbox"/> 父親、 <input type="checkbox"/> 母親、 <input type="checkbox"/> 兄弟、 <input type="checkbox"/> おじ、 <input type="checkbox"/> おば、 <input type="checkbox"/> 祖父、 <input type="checkbox"/> 祖母 <input type="checkbox"/> 友人、 <input type="checkbox"/> 友人(ネット上)、 <input type="checkbox"/> 知人、 <input type="checkbox"/> 支援者、 <input type="checkbox"/> 医者、 <input type="checkbox"/> 専門家、 <input type="checkbox"/> その他

2. 対人関係について不安はありますか。該当する番号に○をしてください。

(初回来所時)	1 全くない	2 あまりない	3 どちらでもない	4 ある程度ある	5 とてもある	9 わからない
(現在)	1 全くない	2 あまりない	3 どちらでもない	4 ある程度ある	5 とてもある	9 わからない

3. 働くことに不安はありますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)	1 全くない	2 あまりない	3 どちらでもない	4 ある程度ある	5 とてもある	9 わからない
(現在)	1 全くない	2 あまりない	3 どちらでもない	4 ある程度ある	5 とてもある	9 わからない

4. 外出する頻度はどの程度ありますか。該当するものに○をしてください。

(初回来所時)	1 ほとんど外出 ない	2 週1回未満	3 週1回程度	4 週に2~3回 程度	5 ほぼ毎日	9 わからない
(現在)	1 ほとんど外出 ない	2 週1回未満	3 週1回程度	4 週に2~3回 程度	5 ほぼ毎日	9 わからない

**▶無記名でのアンケート。原則手渡し、直接回収として、回収後支援者が紐付けを行った。**



## 10. データ分析結果 ①クラウドデータ 平均値 (Before-After分析)

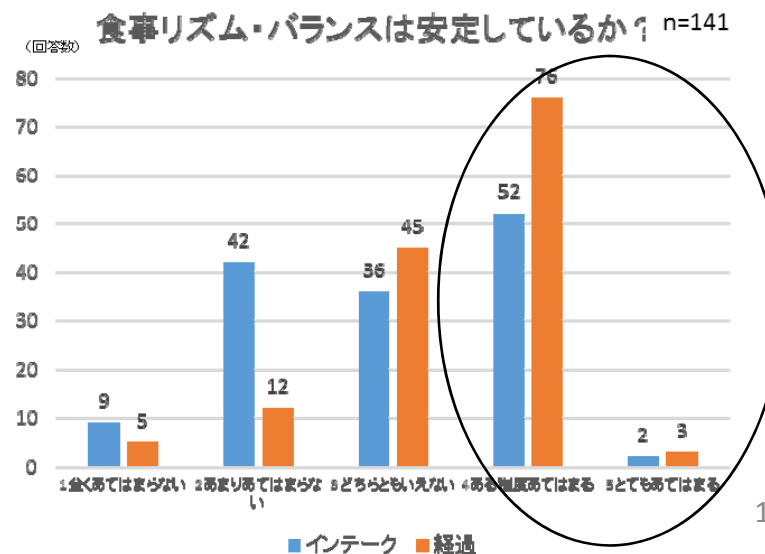
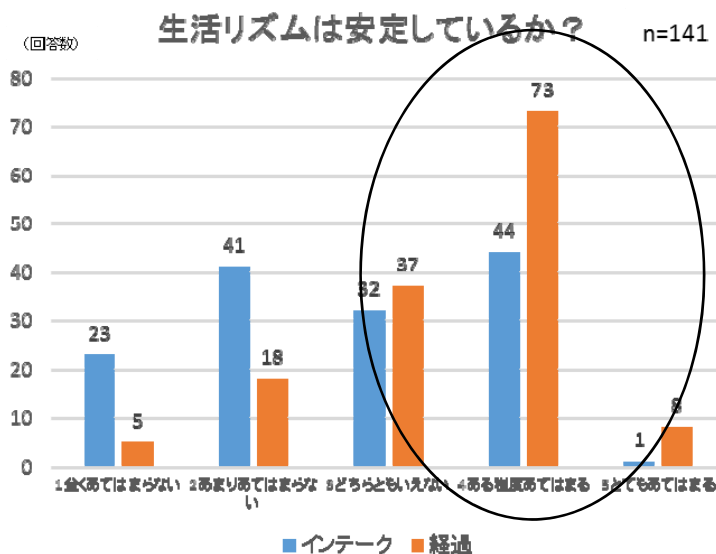
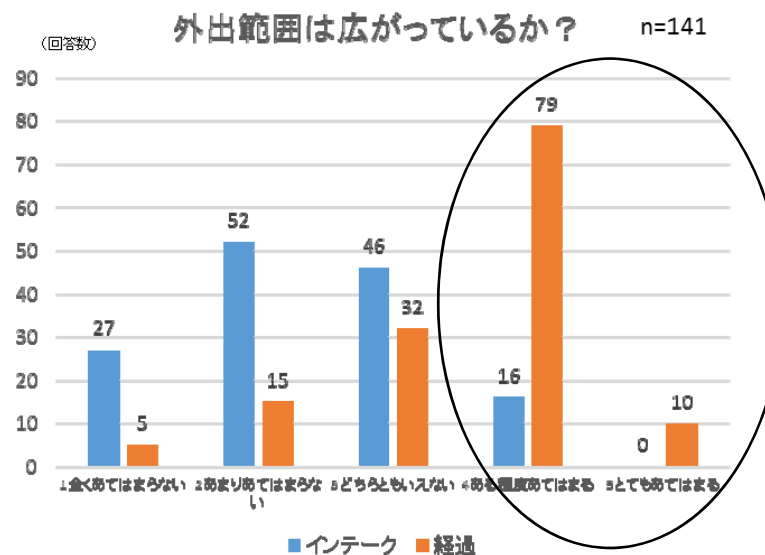
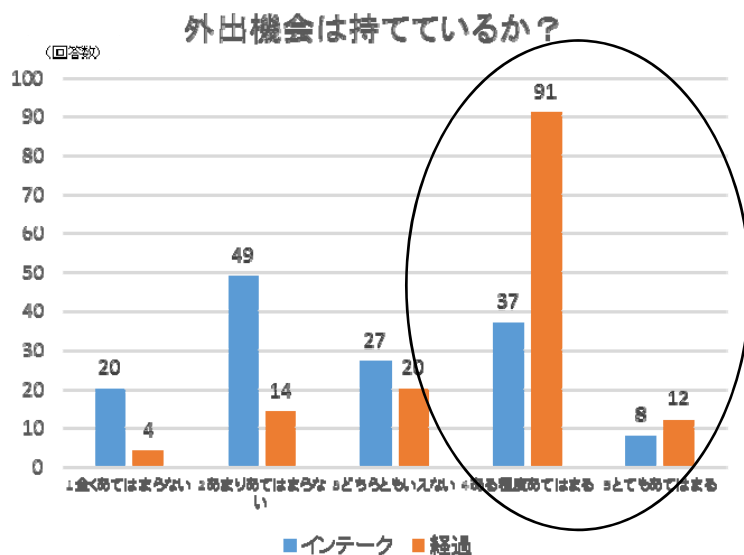
**▶クラウドデータのインテーク時と経過時の平均値(5段階リッカートで聴取)を見ると、すべての項目で程度の差はあれ、改善傾向にあることが確認された。**

質問項目	平均		平均値の差
	初回来所時	現在	
外出機会は持っているか？	2.73	3.65	0.92***
外出範囲は広がっているか？	2.36	3.52	1.16***
生活リズムは安定しているか？	2.71	3.43	0.72***
食事リズム・バランスは安定しているか？	2.97	3.43	0.45***
運動量は安定しているか？	2.50	3.26	0.76***
家族関係は良好か？	3.00	3.32	0.32***
健康状態は良好か？	2.99	3.33	0.34***
他者との会話の機会はあるか？	2.32	3.34	1.02***
他者への興味はあるか？	2.49	3.23	0.74***
表情の変化はあるか？	2.69	3.42	0.74***
挨拶はできるか？	3.11	3.72	0.61***
敬語は使えるか？	3.21	3.64	0.43***
報連相は適切にできるか？	2.77	3.26	0.49***
身だしなみは適切か？	3.43	3.65	0.23***
自己肯定感	2.11	2.53	0.43***
自己理解の度合い	2.10	2.44	0.34***
目標設定の適正度	2.42	2.61	0.19**
就業知識	2.24	2.49	0.26***
自立意欲	2.55	2.80	0.25**
求職活動の進行度	2.00	2.71	0.71***

5段階リッカートの平均値を算出。対応のあるサンプルのt検定(両側)を行い、 $p < .001$ \*\*\*、 $p < .01$ \*\*、 $p < .05$ \*とした。

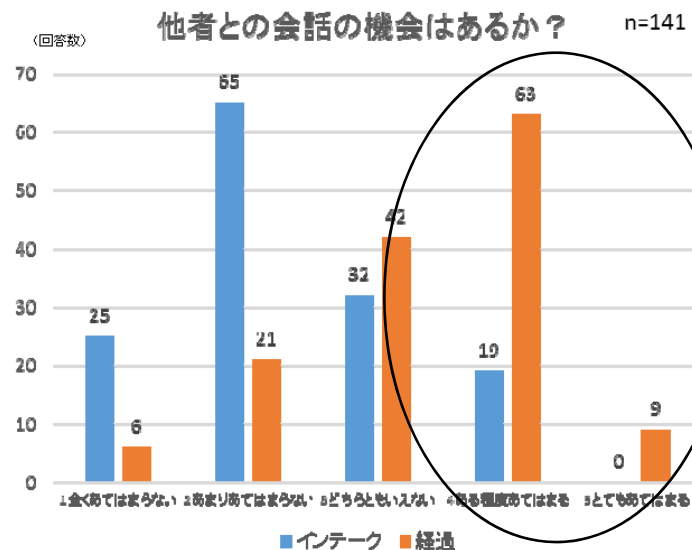
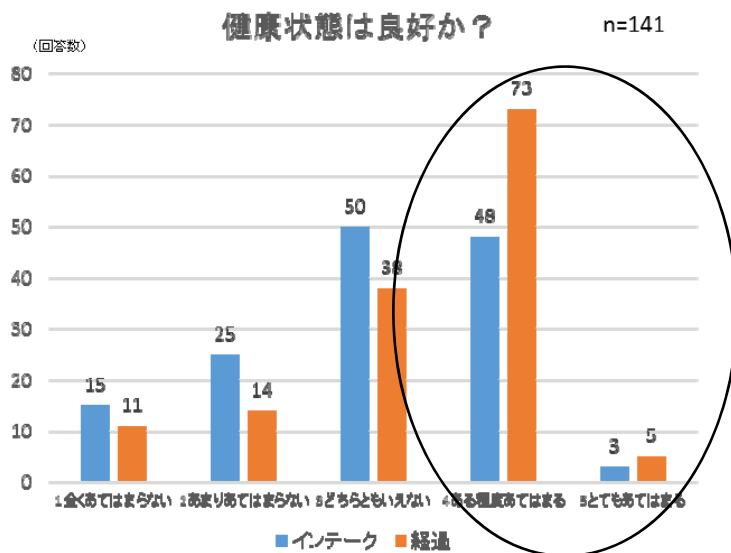
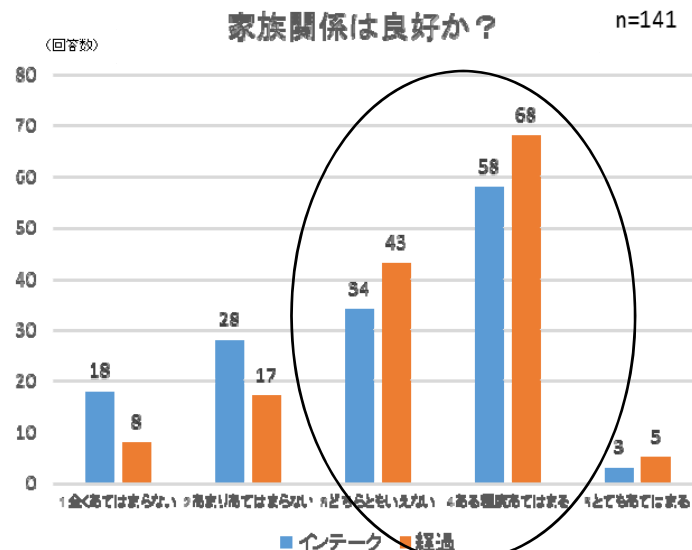
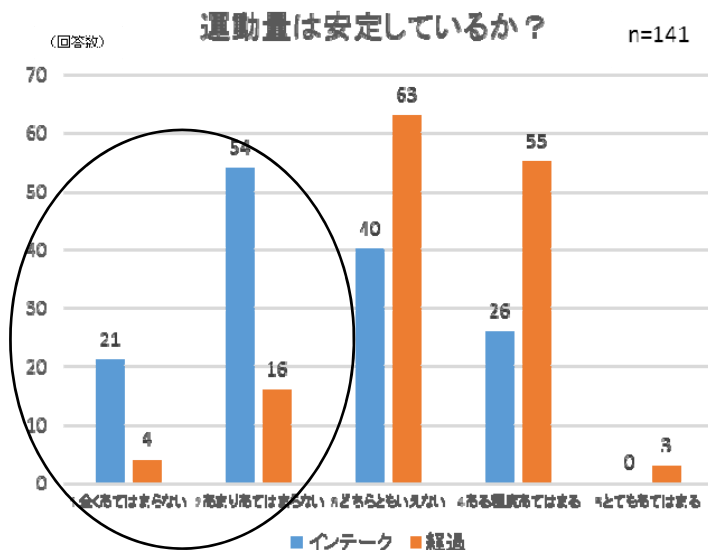
# 10. データ分析結果 ①クラウドデータ (Before-After分析)

**▶外出機会は増加し、範囲も広がっている。支援機関に繋がったことで、確実に改善が見える部分。生活リズムは明らかに安定。**



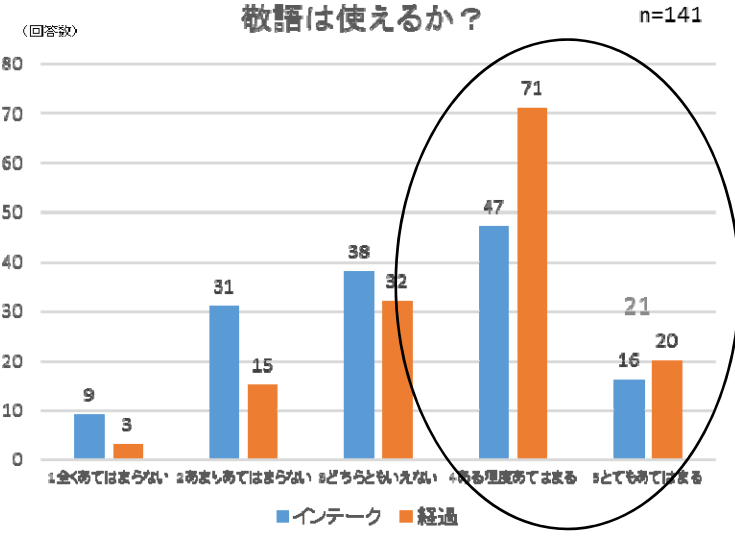
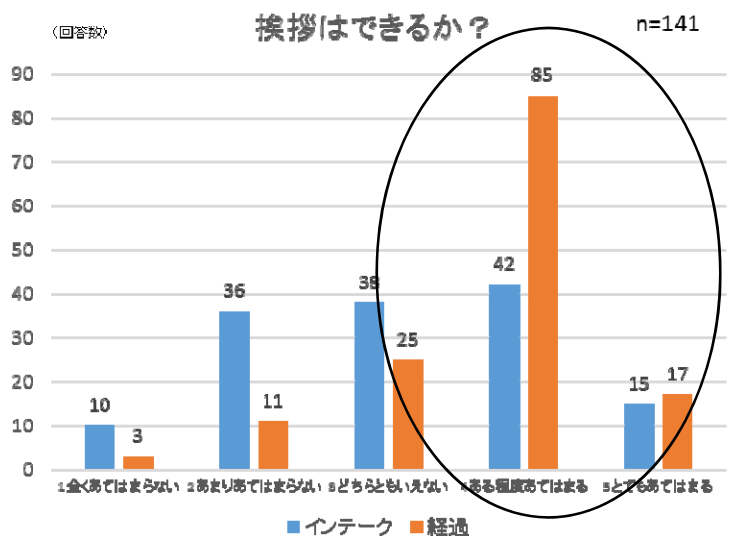
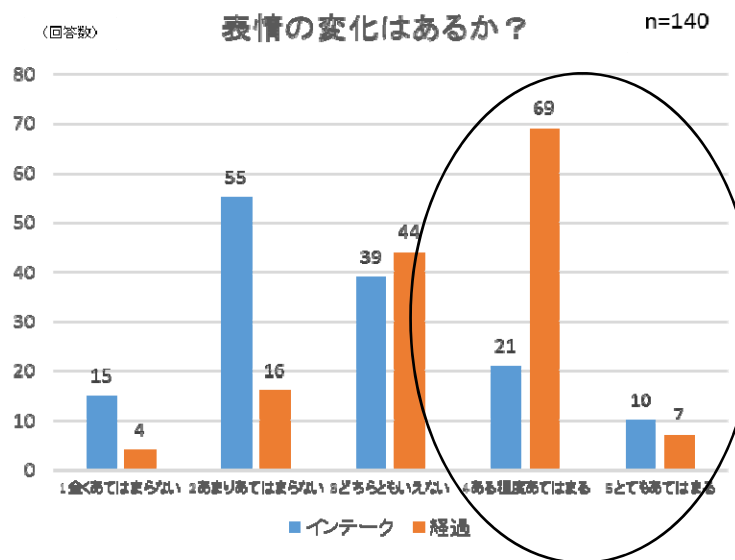
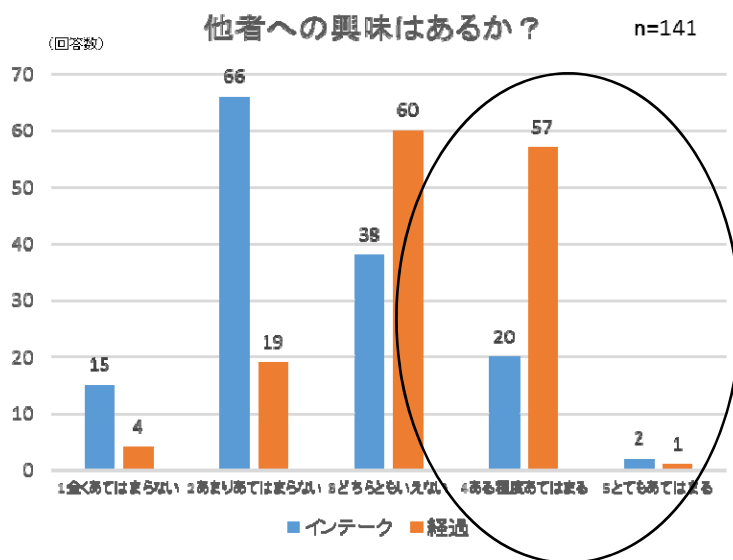
# 10. データ分析結果 ①クラウドデータ (Before-After分析)

**▶運動量は明らかに増加している。家族関係に関しては大きな変化はなし。他者との会話の機会は明確に増えている。**



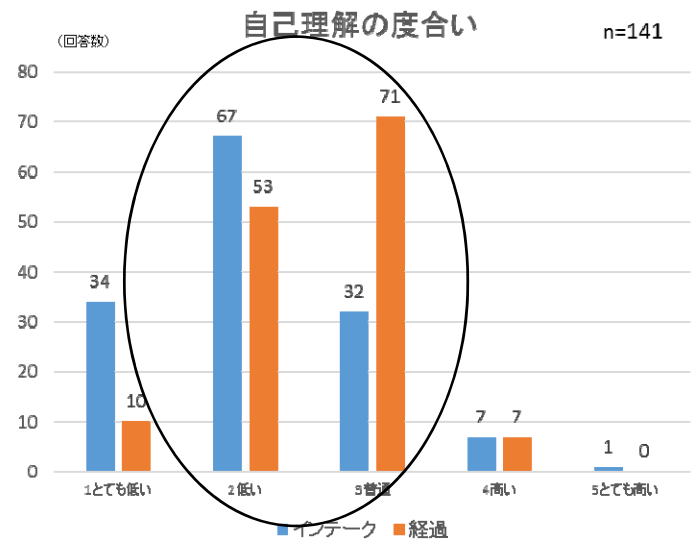
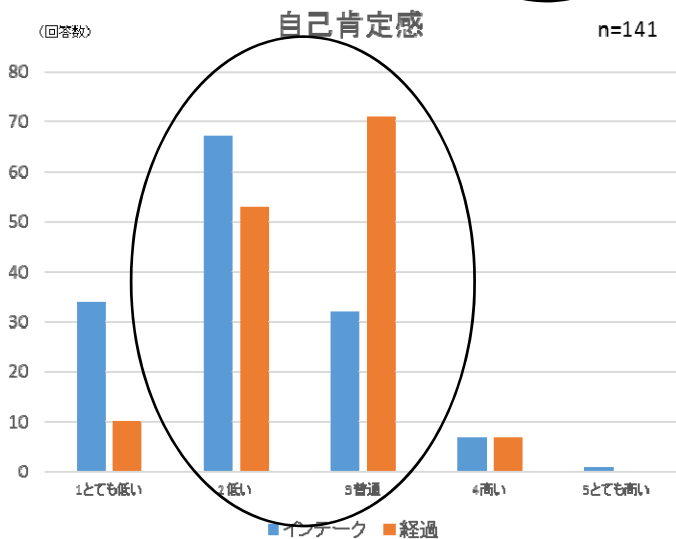
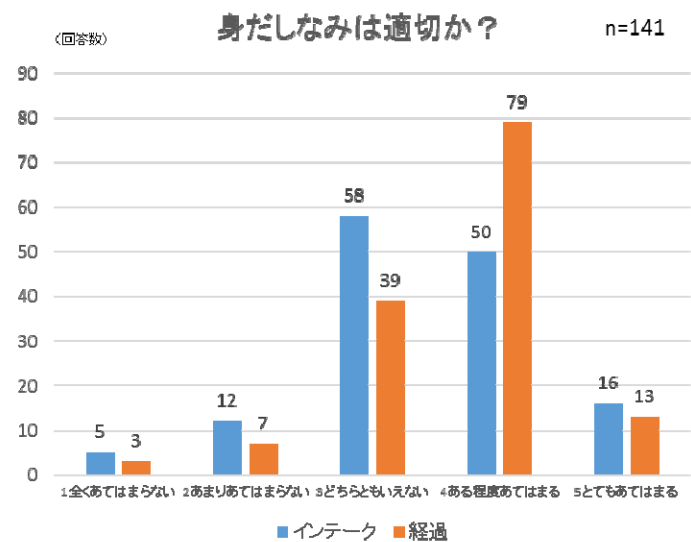
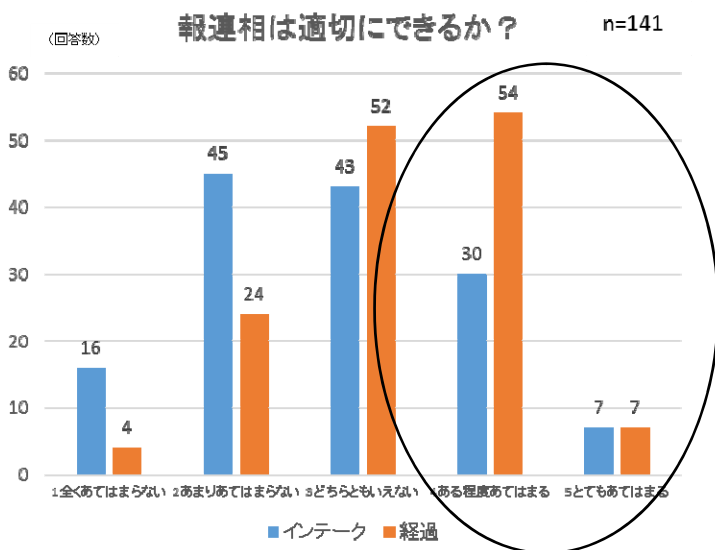
# 10. データ分析結果 ①クラウドデータ (Before-After分析)

**▶他者への興味(=外向的思考)は向上している。表情の変化も見える。敬語よりも、挨拶ができるようになってきているという変化の方が大きい。**



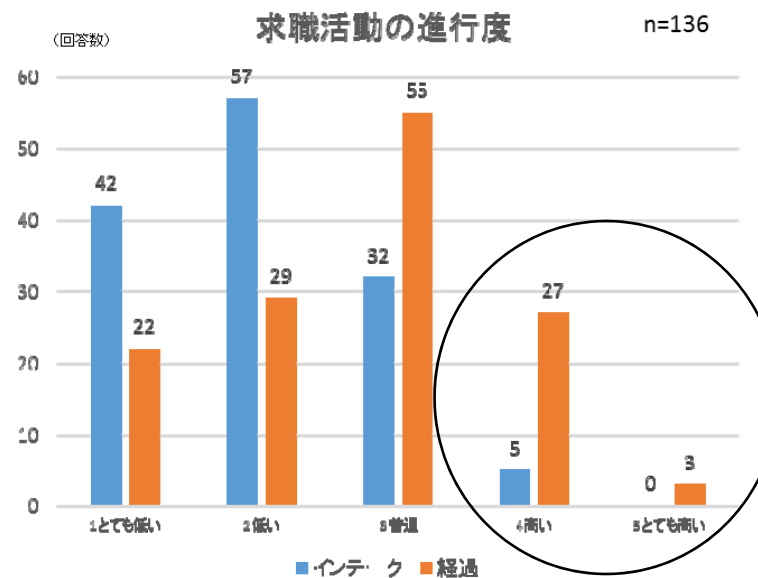
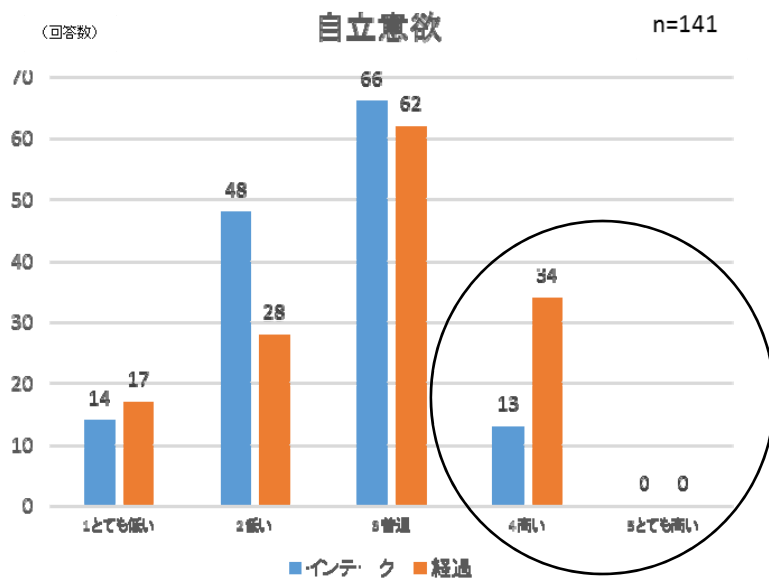
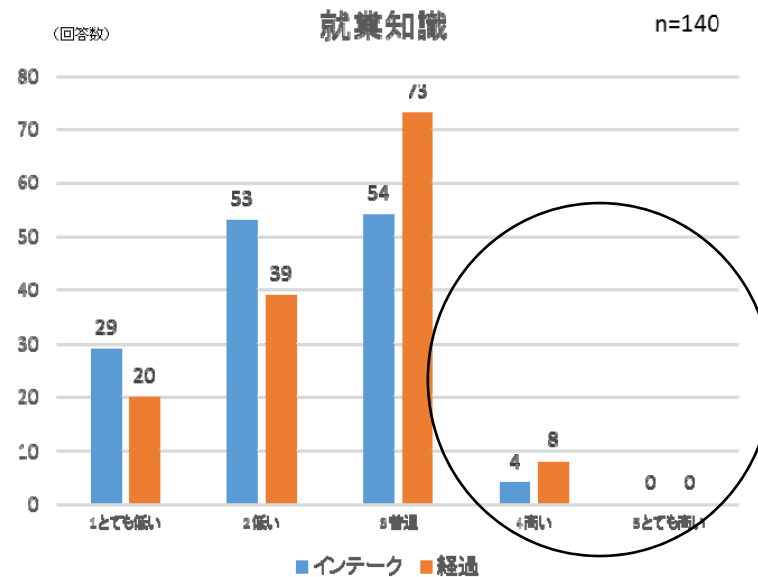
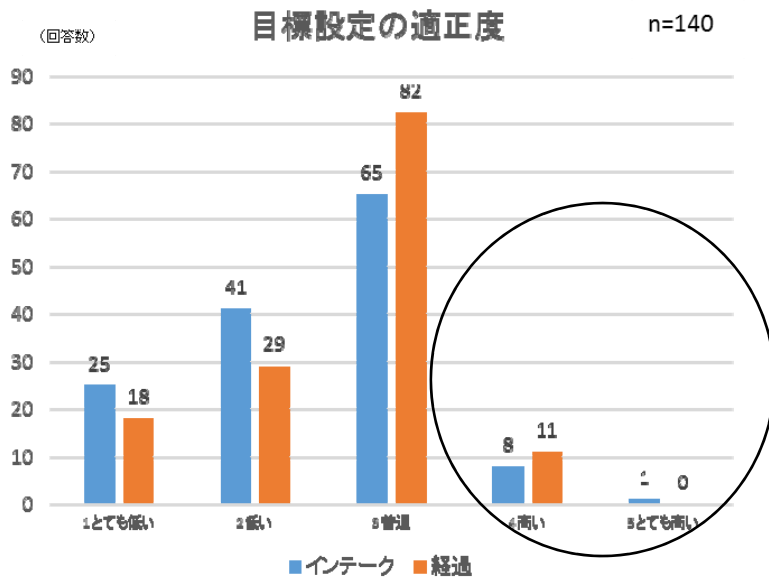
# 10. データ分析結果 ①クラウドデータ (Before-After分析)

- ▶ **報連相は改善。社会スキルというよりも、定期面談を設定している結果とみられる。**
- ▶ **自己肯定感、自己理解も若干の改善傾向ありだが、大きく改善しているとは言えない！**



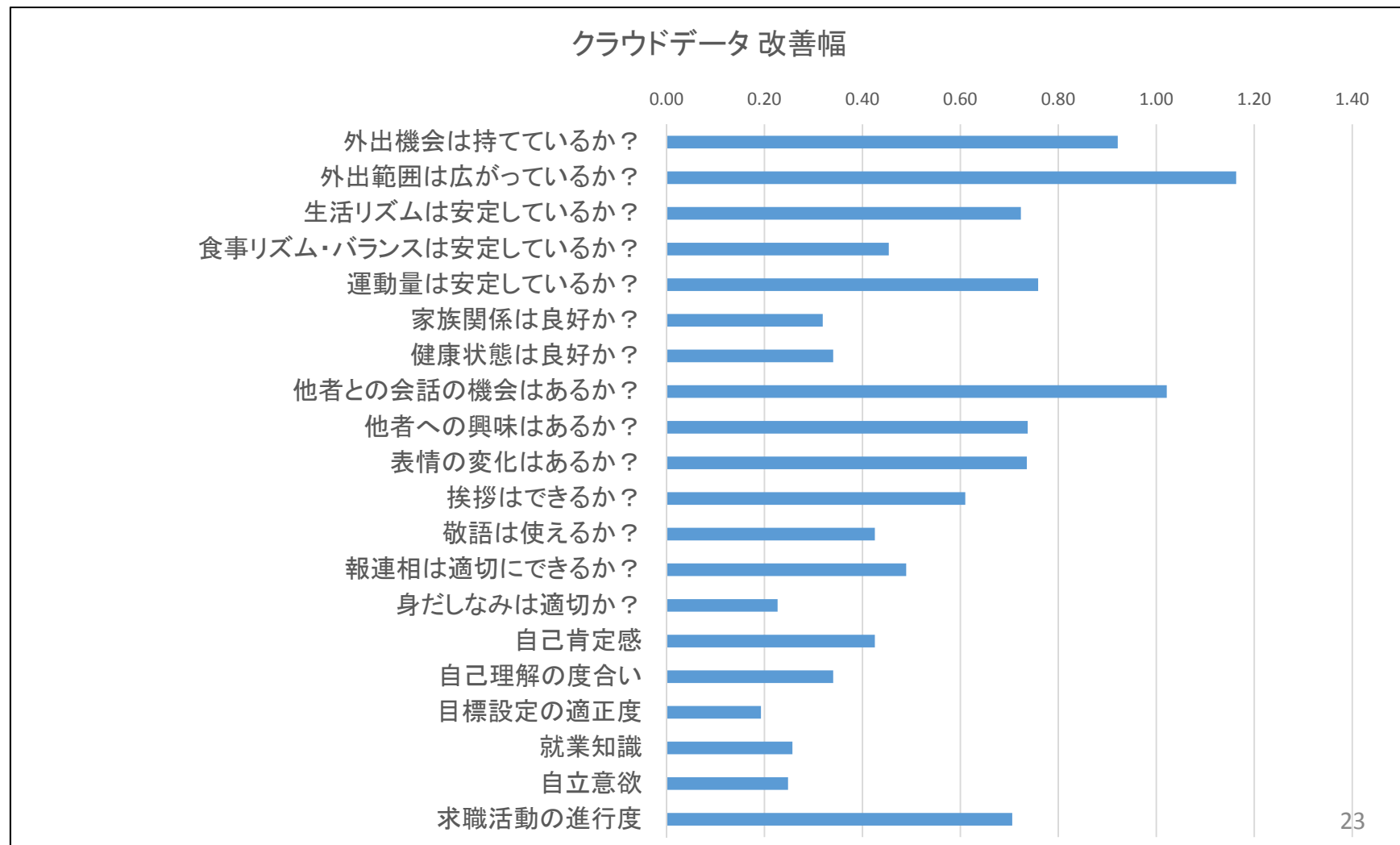
# 10. データ分析結果 ①クラウドデータ (Before-After分析)

▶ **改善傾向ではあるが、大きくは無い。**



## 10. データ分析結果 ①クラウドデータ (Before-After分析)

**▶改善幅の平均値一覧。相談員視点である第三者評価のクラウドデータに関しては、大きく改善が見えるのは「支援機関に繋がり」、「ひきこもり状態から変化」した事による一次的にな変化が多い。**



## 10. データ分析結果 ②アンケート調査データ(Before-After分析)

**▶アンケート調査のすべての質問項目において、インテーク時より経過時において改善傾向が見られた。**

番号	質問文	平均点		平均値の差
		インテーク時	経過時	
問2	対人関係について不安はありますか。	4.20	3.42	-0.78***
問3	働くことに不安はありますか。	4.44	3.59	-0.85***
問4	外出する頻度はどの程度ありますか。	3.52	4.57	1.05***
問5	日常生活において、外出範囲は広がったと思いますか。	2.52	3.87	1.35***
問6	日常生活は楽しいと思いますか。	2.53	3.45	0.92***
問7	心を許せる友人が欲しいと思いますか。	3.41	3.78	0.37***
問8	行きたいところや、やりたいこと、欲しいものなどがありますか。	3.24	3.95	0.71***
問9	あなたは身だしなみ・おしゃれに関心がありますか。	2.63	3.25	0.62***
問10	支援者や周りの人のアドバイスに対して前向きに受け入れようと思いますか。	3.43	4.16	0.74***
問11	新しいことに挑戦したいと思いますか。	2.70	3.80	1.10***
問12	日常で落ち込むことがありますか。	4.13	3.69	-0.45***
問13	自分のことが好きですか。	2.28	2.70	0.42***
問14	今の自分の得意・不得意を理解していると思いますか。	3.14	3.72	0.59**
問15	自分が就きたい仕事についてのイメージはありますか。	2.46	3.44	0.98***
問16	自分が就きたい仕事に向けて必要なことを理解していると思いますか。	3.38	3.65	0.28
問17	自分が就きたい仕事に向けて行動していますか。	2.43	3.71	1.29***
問18	家族はあなたのことを理解していると思いますか。	3.15	3.63	0.48***
問19	あなたは家族に支援されていると思いますか。	3.68	4.16	0.48***
問20	ご両親とあなたの関係は、良いと思いますか。	3.09	3.63	0.53***
問21	あなたは生活に満足していますか。	2.20	2.90	0.70***

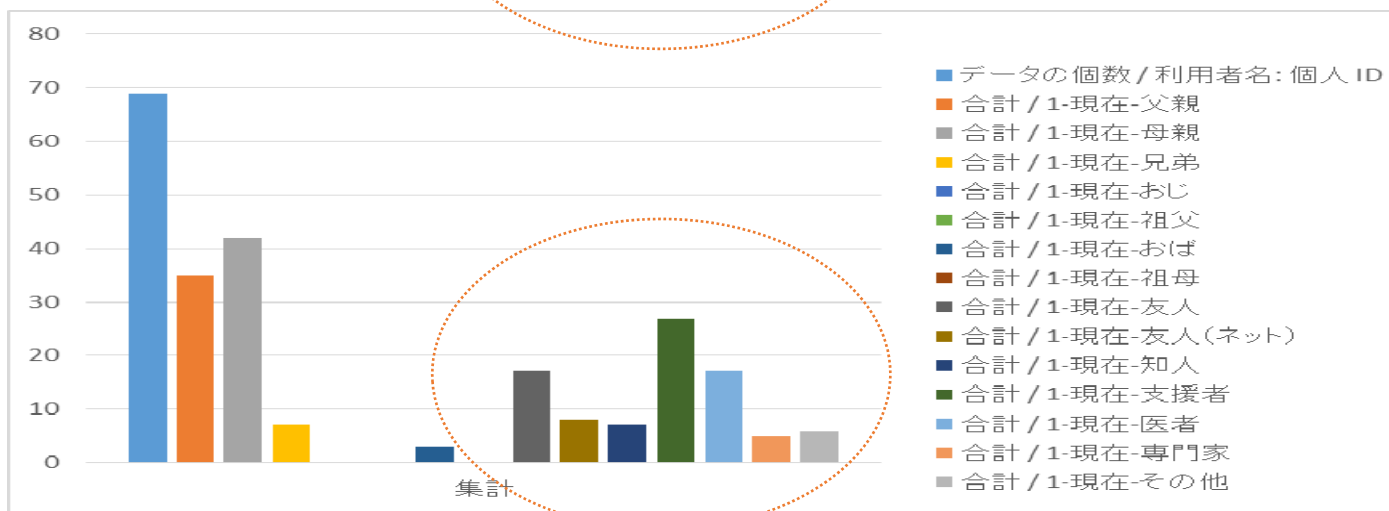
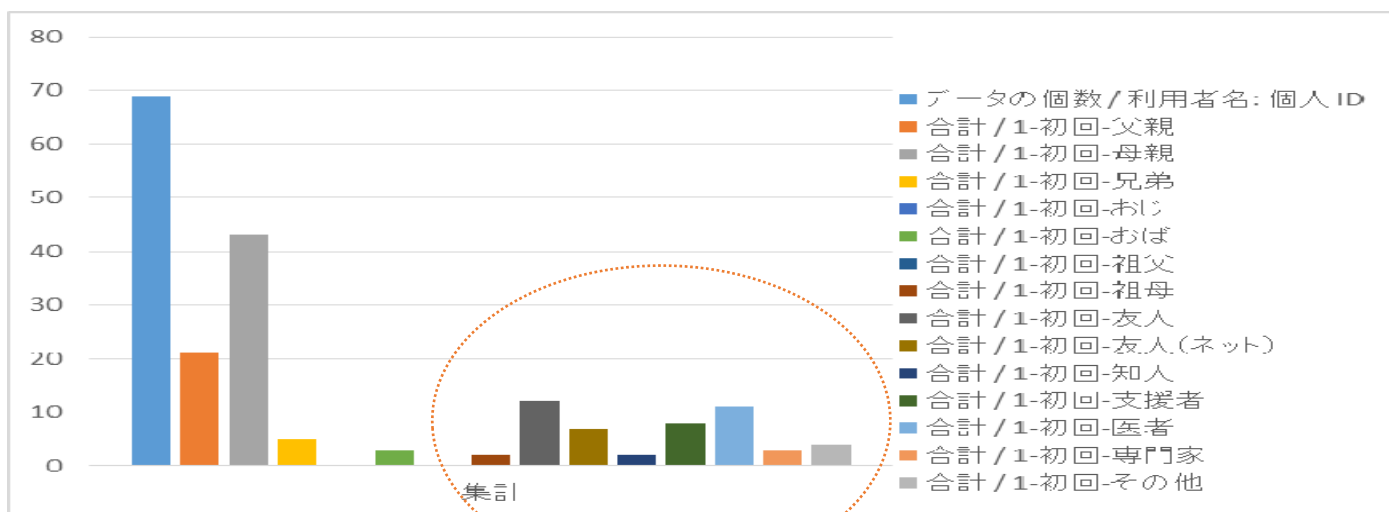
5段階リッカートの平均値を算出。対応のあるサンプルのt検定(両側)を行い、 $p<.001$ \*\*\*、 $p<.01$ \*\*、 $p<.05$ \*とした。



# 10. データ分析結果 ②アンケート調査データ(Before-After分析)

## ▶相談対象に関して、家族以外にも広がりを見せている

問1 あなたが悩みを相談する人はどなたですか

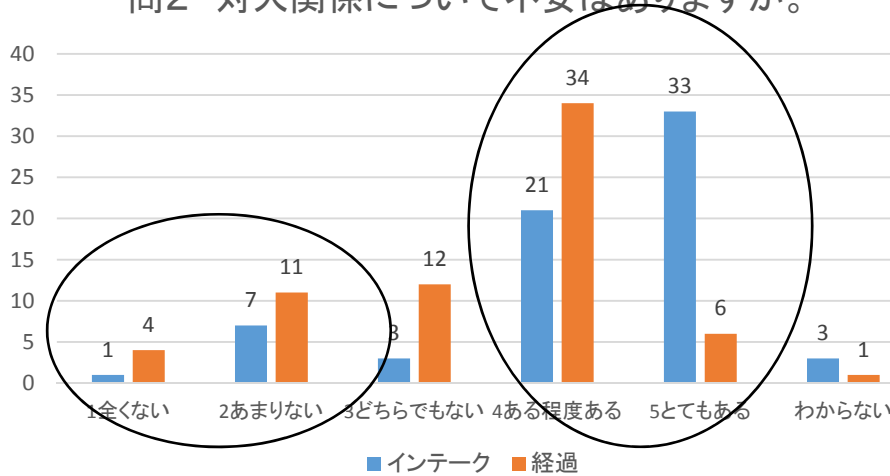


# 10. データ分析結果 ②アンケート調査データ (Before-After分析)

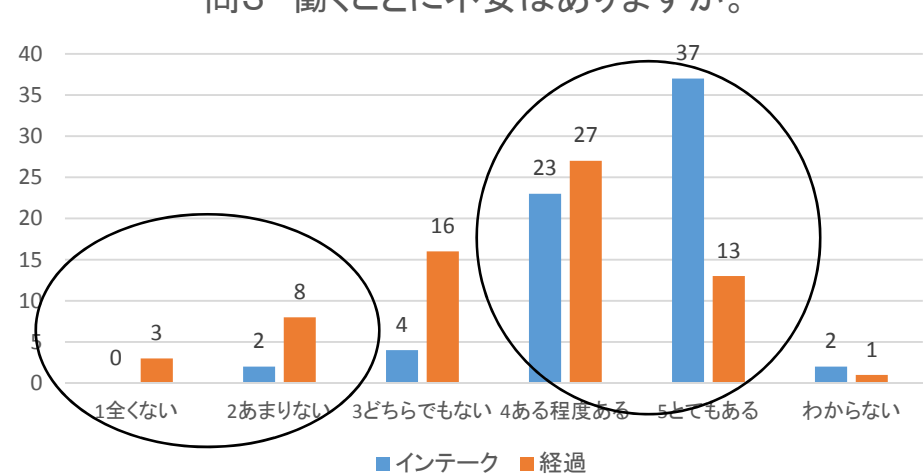
**▶改善傾向だが、「対人関係」「働くこと」に対する[不安]が一定以上残る層が多いいる事が判る。**

**▶外出範囲、機会に関してはクラウド評価同様、改善傾向が強い！**

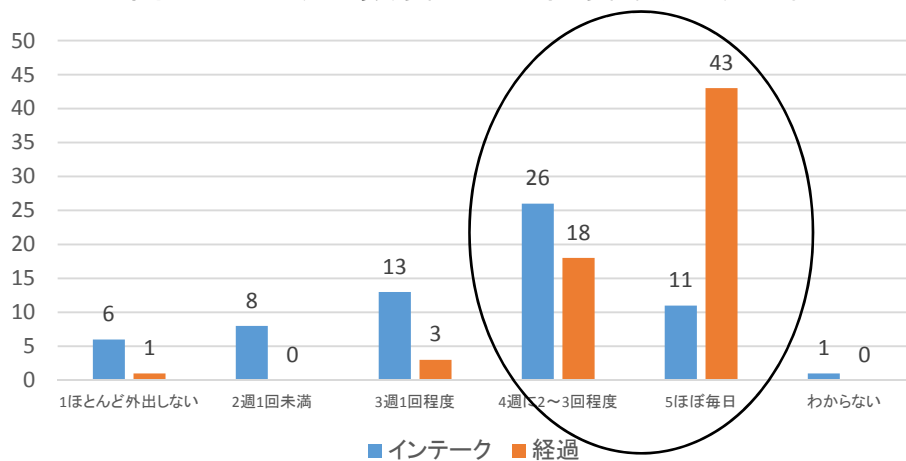
(回答数) 問2 対人関係について不安はありますか。 n=68



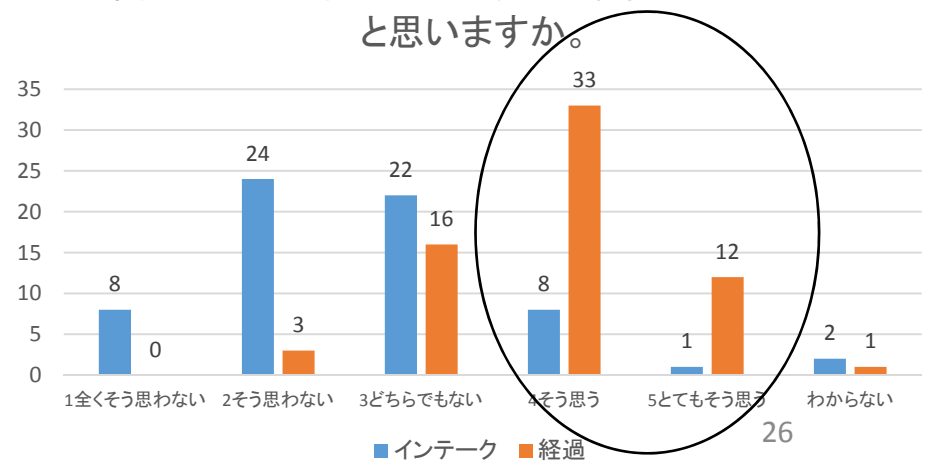
(回答数) 問3 働くことに不安はありますか。 n=68



(回答数) 問4 外出する頻度はどの程度ありますか。 n=68

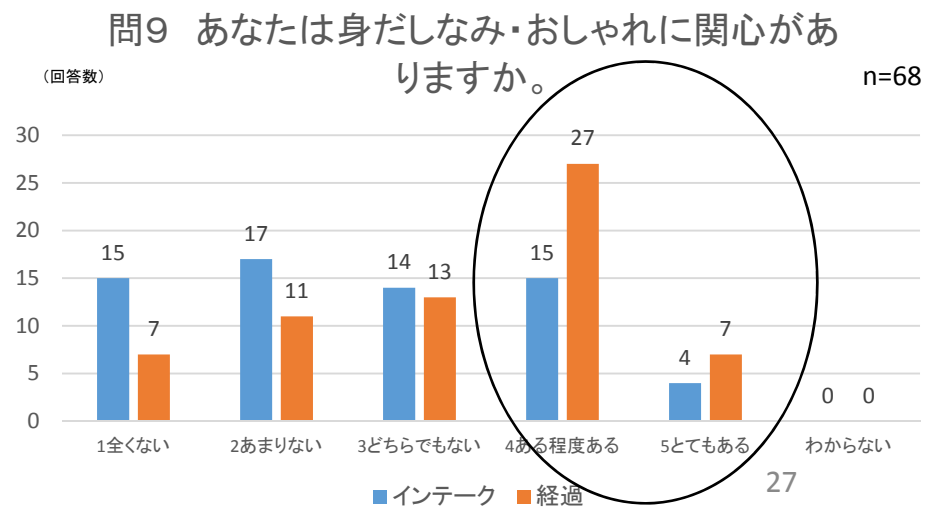
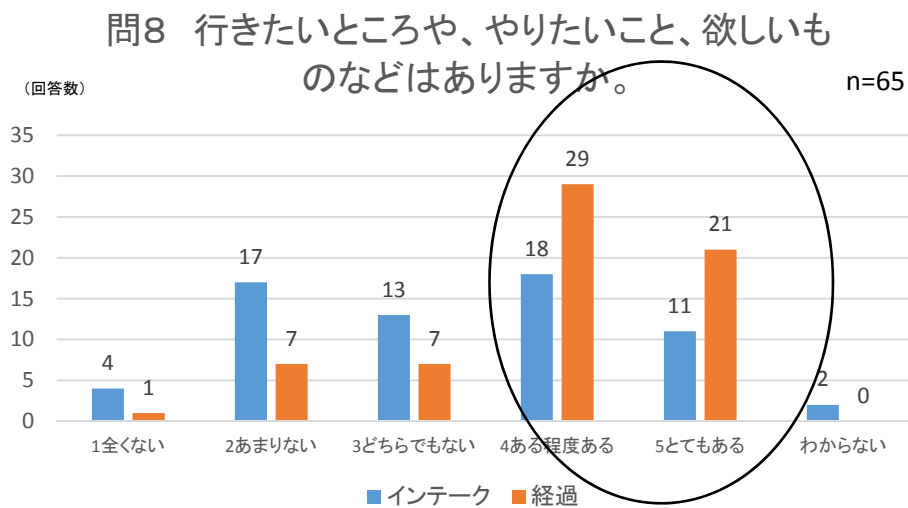
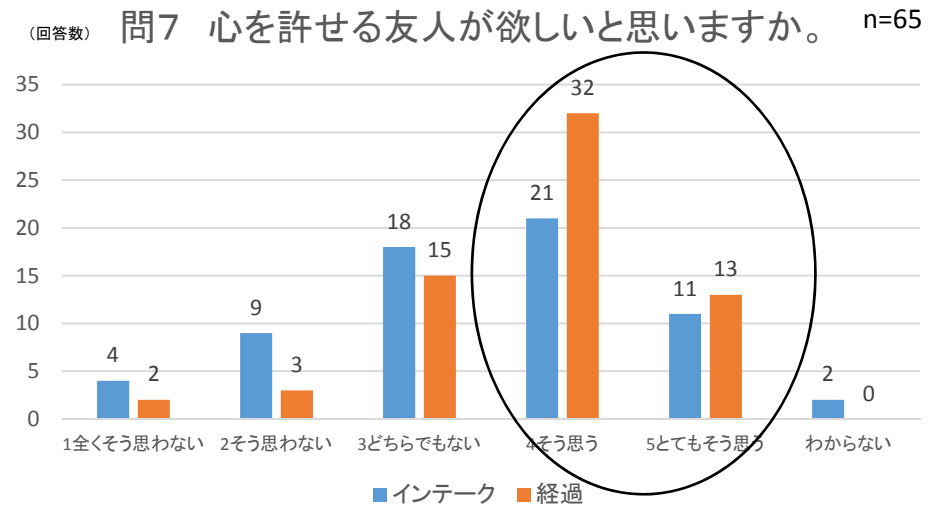
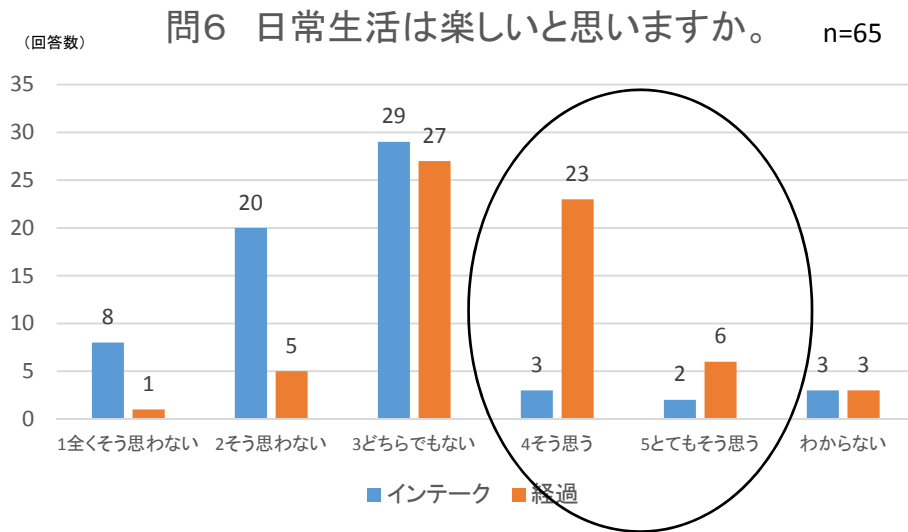


(回答数) 問5 日常生活において、外出範囲は広がったと思いますか。 n=65



# 10. データ分析結果 ②アンケート調査データ (Before-After分析)

**▶いずれも改善傾向。ロジックモデルにおける中間アウトカムの「欲求の向上」にあたる部分。**

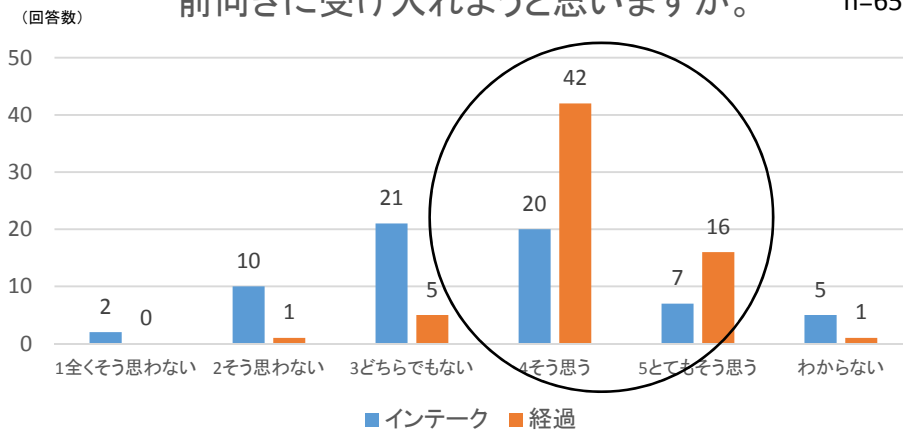


# 10. データ分析結果 ②アンケート調査データ (Before-After分析)

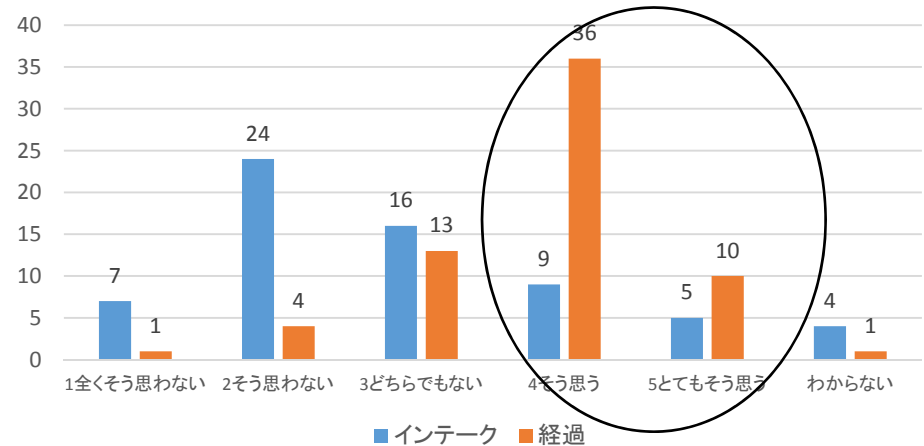
**▶アドバイスの受け入れ、新しいことへの挑戦意欲は改善。「日常で落ち込むこと」に関しては依然として「ある程度ある」「とてもある」の割合が大きい。**

**▶「自己肯定感」にあたる「自分のことが好きですか」に関しては低い平均値のまま推移。**

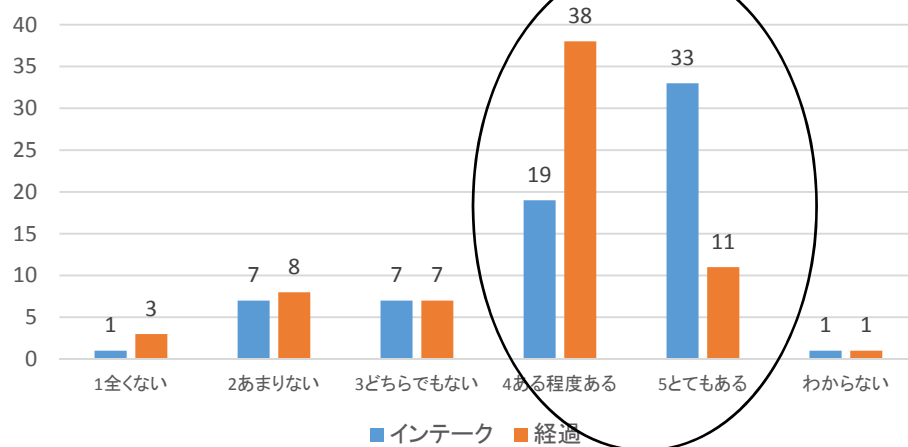
問10 支援者や周りの人のアドバイスに対して前向きに受け入れようと思いますか。 n=65



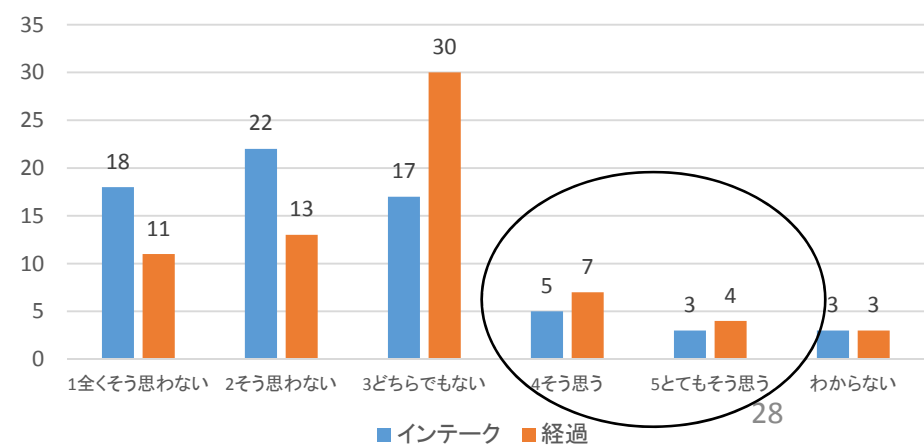
問11 新しいことに挑戦したいと思いますか。 n=65



問12 日常で落ち込むことがありますか。 n=68



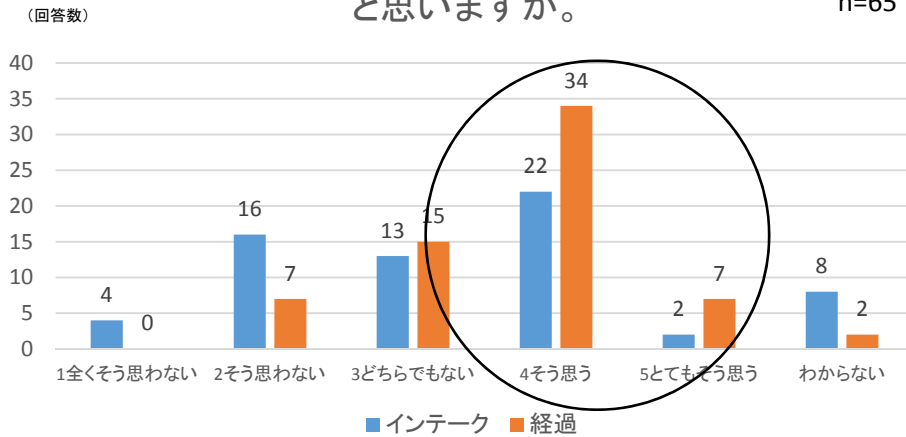
問13 自分のことが好きですか。 n=68



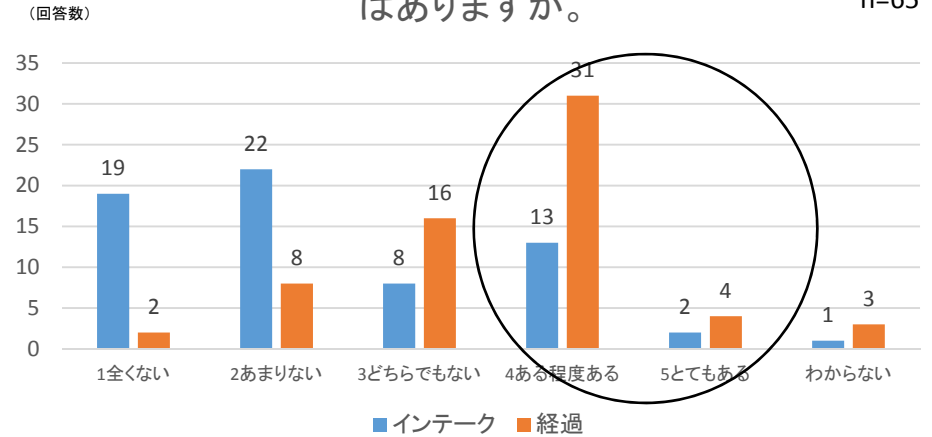
# 10. データ分析結果 ②アンケート調査データ (Before-After分析)

**▶就業知識、具体的な行動、共に改善していると言える。**

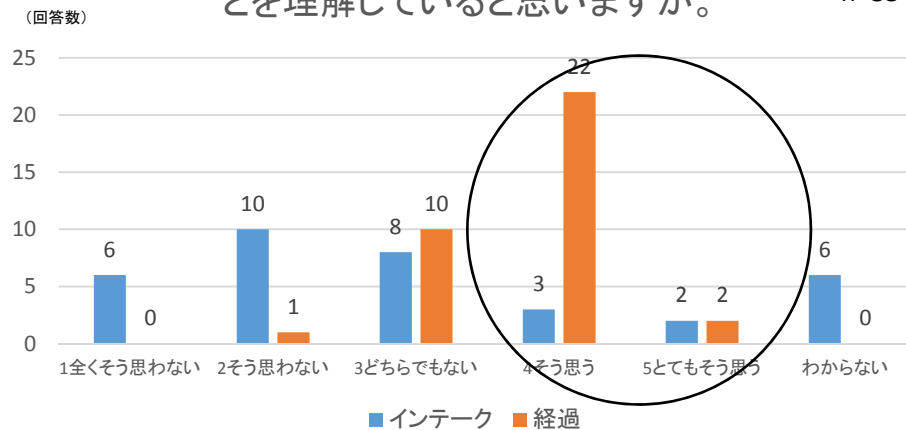
問14 今の自分の得意・不得意を理解している  
と思いますか。 n=65



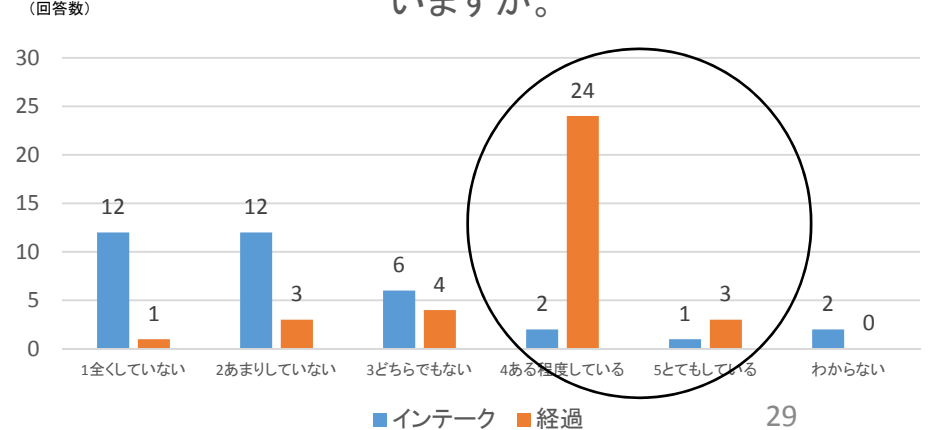
問15 自分が就きたい仕事についてのイメージ  
はありますか。 n=65



問16 自分が就きたい仕事に向けて必要なこと  
を理解していると思いますか。 n=35



問17 自分が就きたい仕事に向けて行動して  
いますか。 n=35

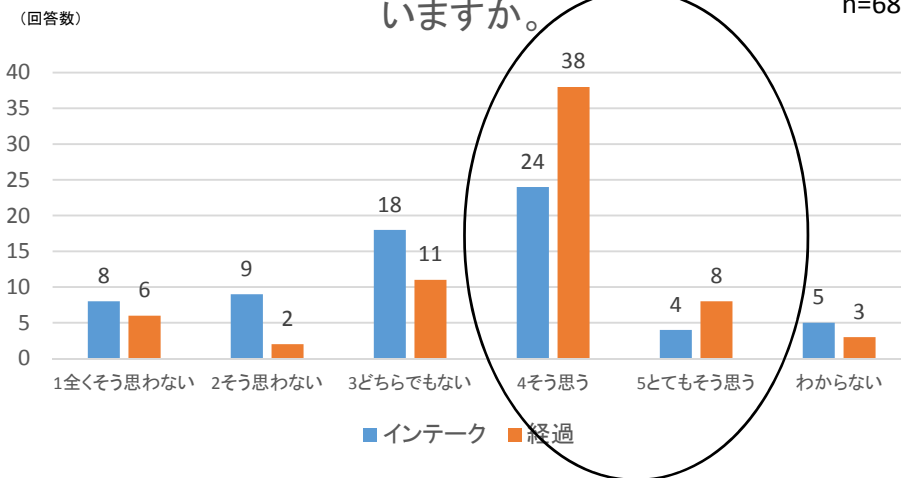


# 10. データ分析結果 ②アンケート調査データ (Before-After分析)

- いずれも改善傾向だが、家族からの「理解」よりも「支援」の方が本人の実感の度合いが強く、変化率は「理解」の方が大きい
- 生活満足度は大きく改善している

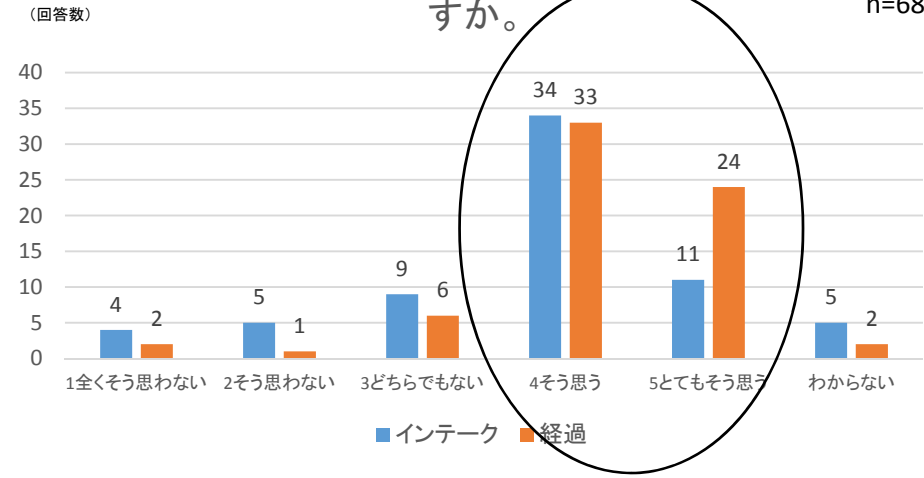
問18 家族はあなたのことを理解していると思いますか。

n=68



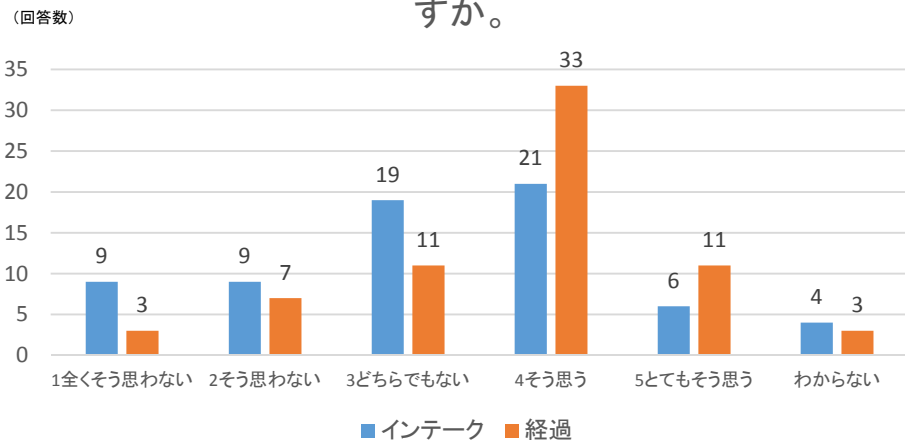
問19 あなたは家族に支援されていると思いますか。

n=68



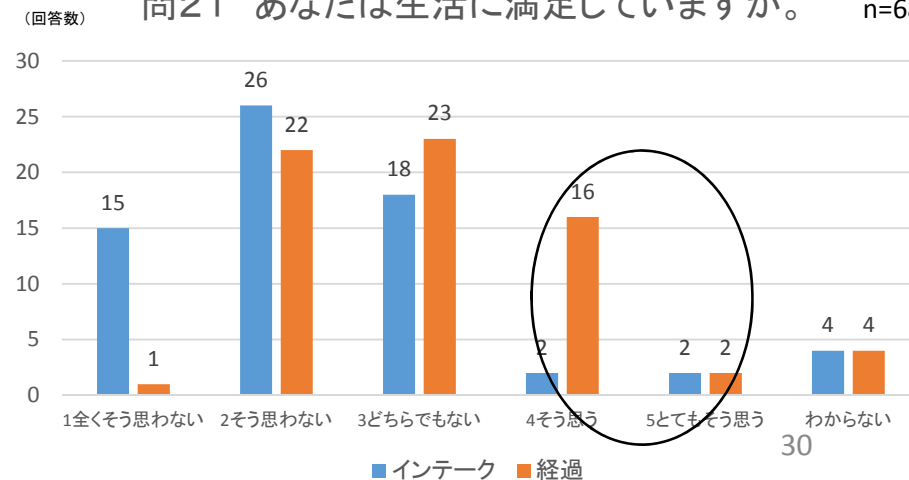
問20 ご両親とあなたの関係は、良いと思いますか。

n=68



問21 あなたは生活に満足していますか。

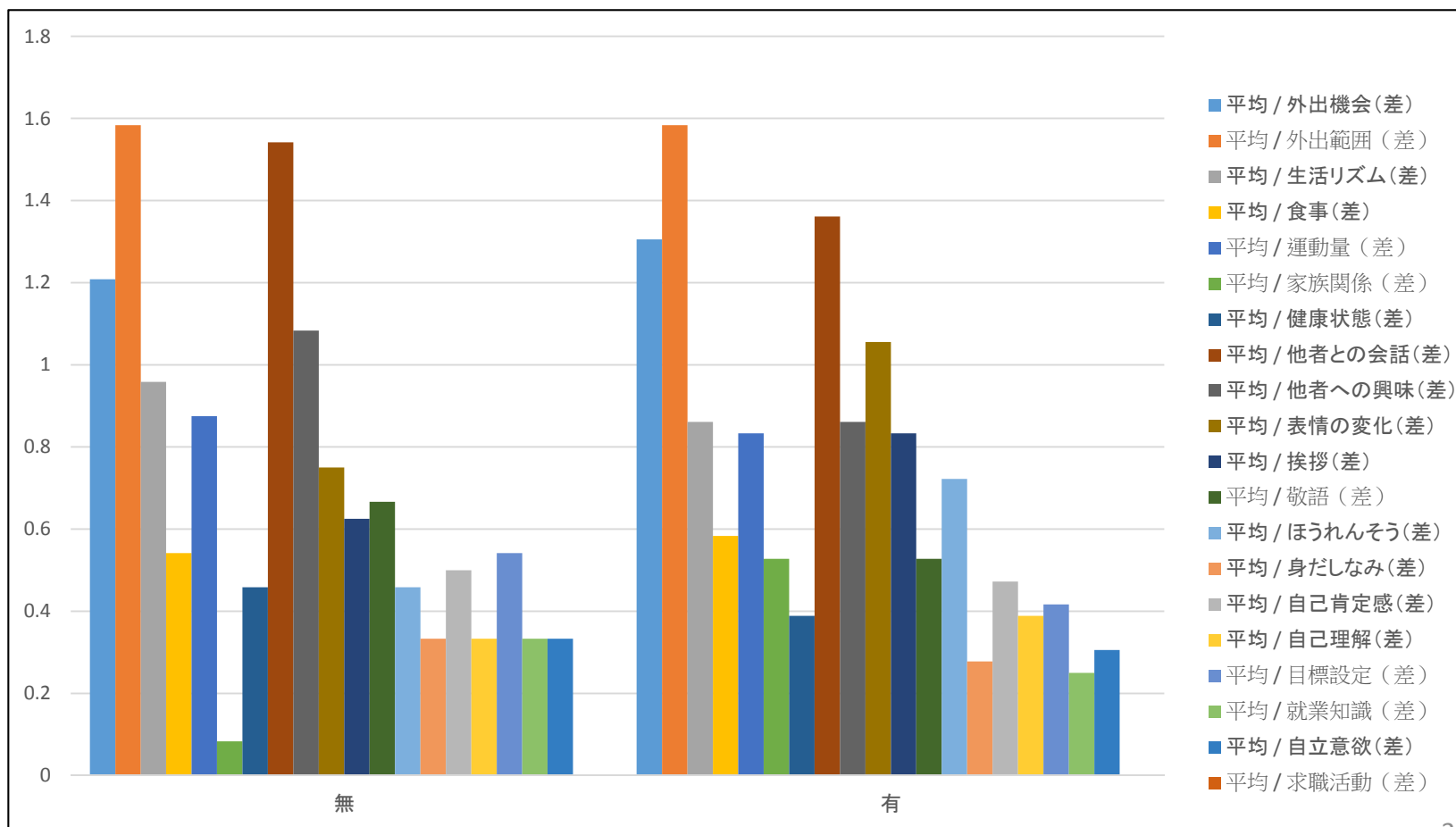
n=68



# 10. データ分析結果 ③家族支援有無分析 (With-Without分析)

- ▶ 家族支援の有無(具体的には、家族面談の有無)別に分析を実施。
- ▶ 各項目で差異があるが、全体では、大きな差は見られない。
- ▶ 有意差が認められたのは「家族関係は良好か」の設問のみ

## 各項目の改善幅の比較(家族支援有無)～クラウド～



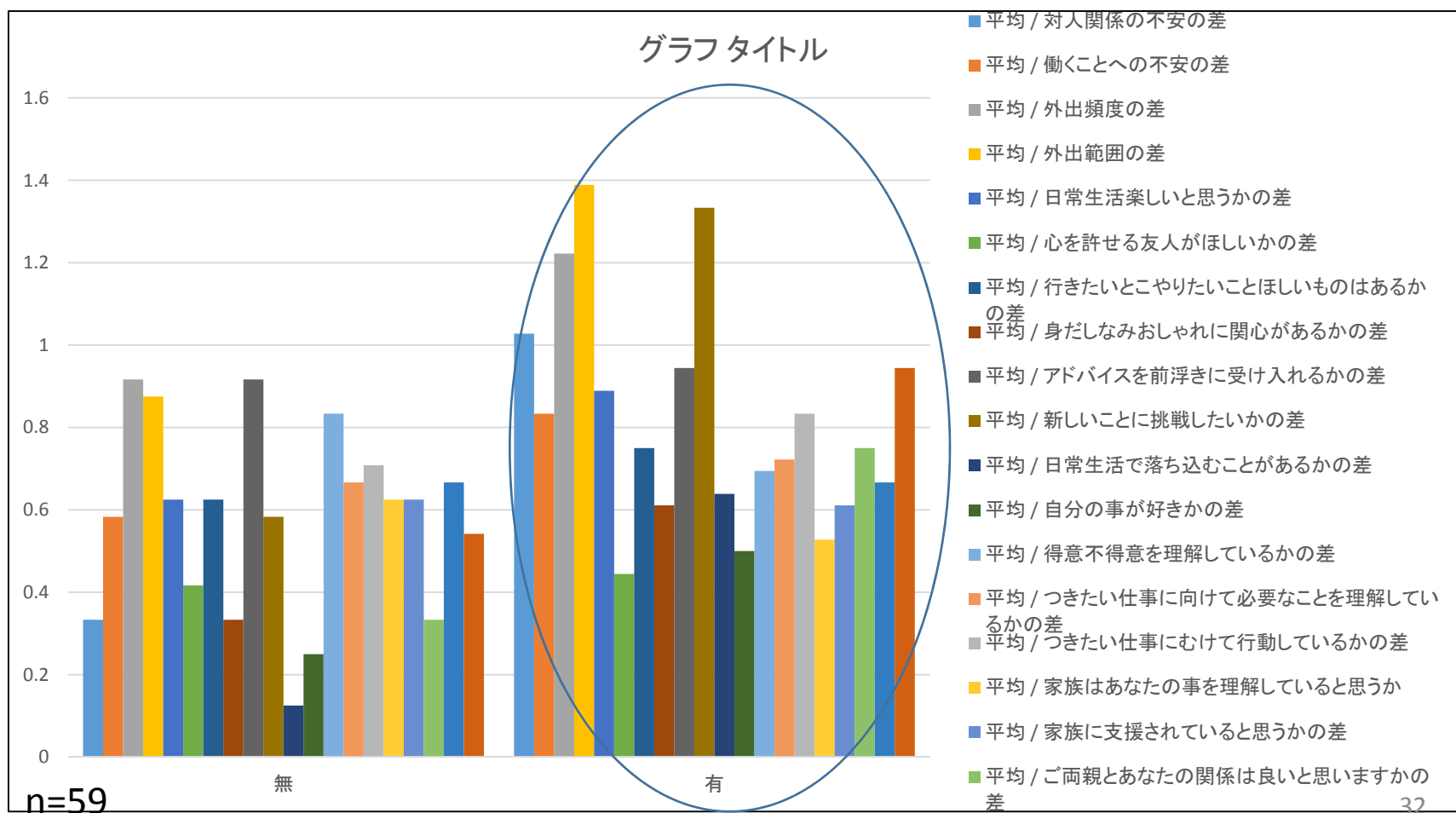
n=59

# 10. データ分析結果 ③家族支援有無分析 (With-Without分析)

▶**全体的に、「家族面談有」の層の方が、改善の幅が大きい。**

▶**有意差が認められたのは、「対人関係への不安」「新しい事への挑戦欲」「日常生活の落ち込む事があるか」の項目。**

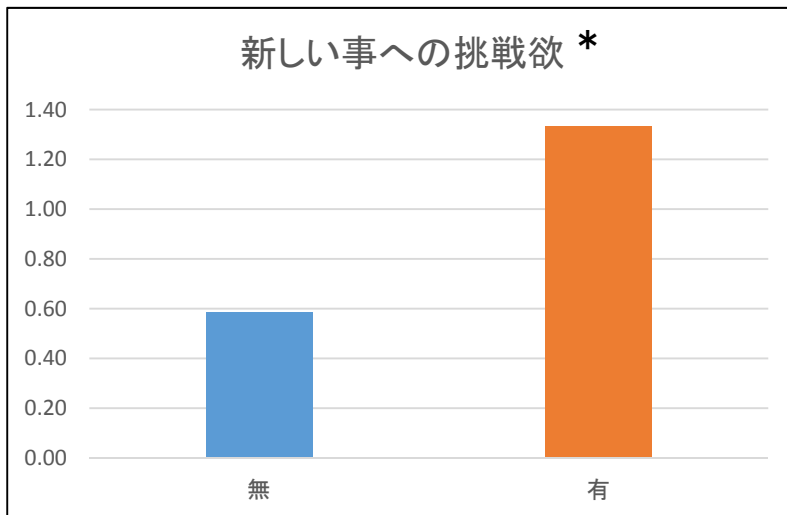
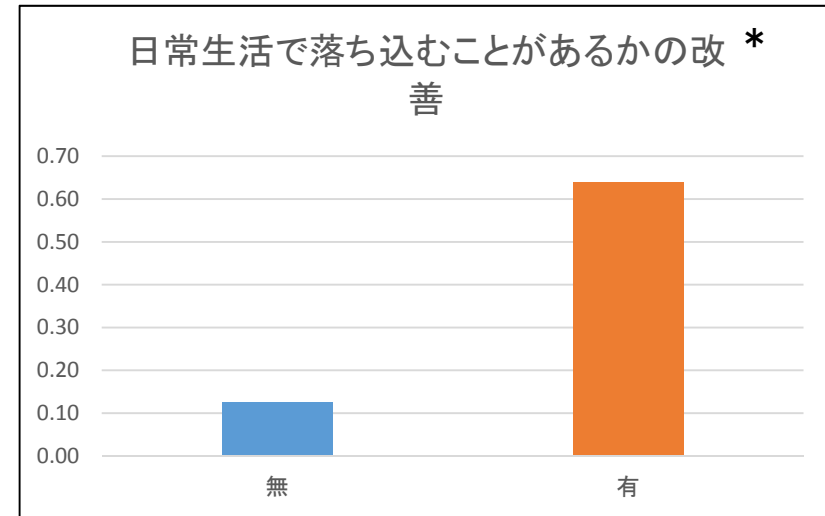
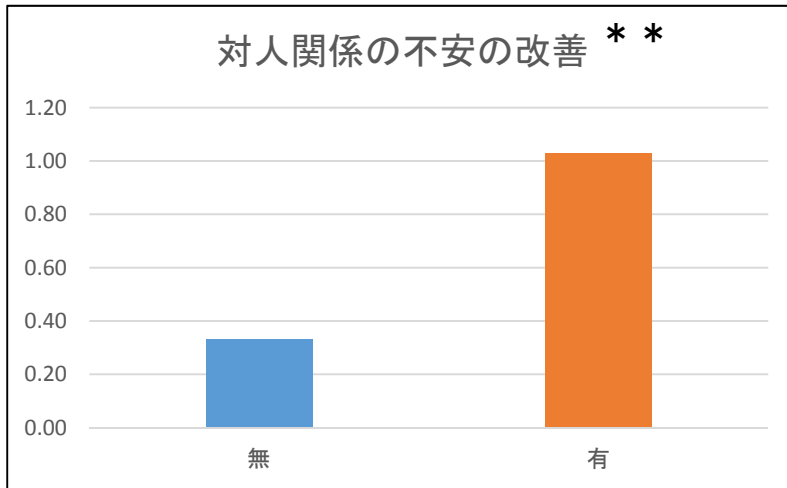
各項目の改善幅の比較(家族支援有無)～アンケート～





## 10. データ分析結果 ③家族支援有無分析 (With-Without分析)

**▶アンケートにおいて、家族支援の効果が強く現れる項目として、「対人関係の不安の改善」、「日常生活で落ち込むことがあるかの改善」、「新しいことへの挑戦欲」があった。**



**▶これらの項目に関しては、家族支援の効果が強く現れてる部分と言える**

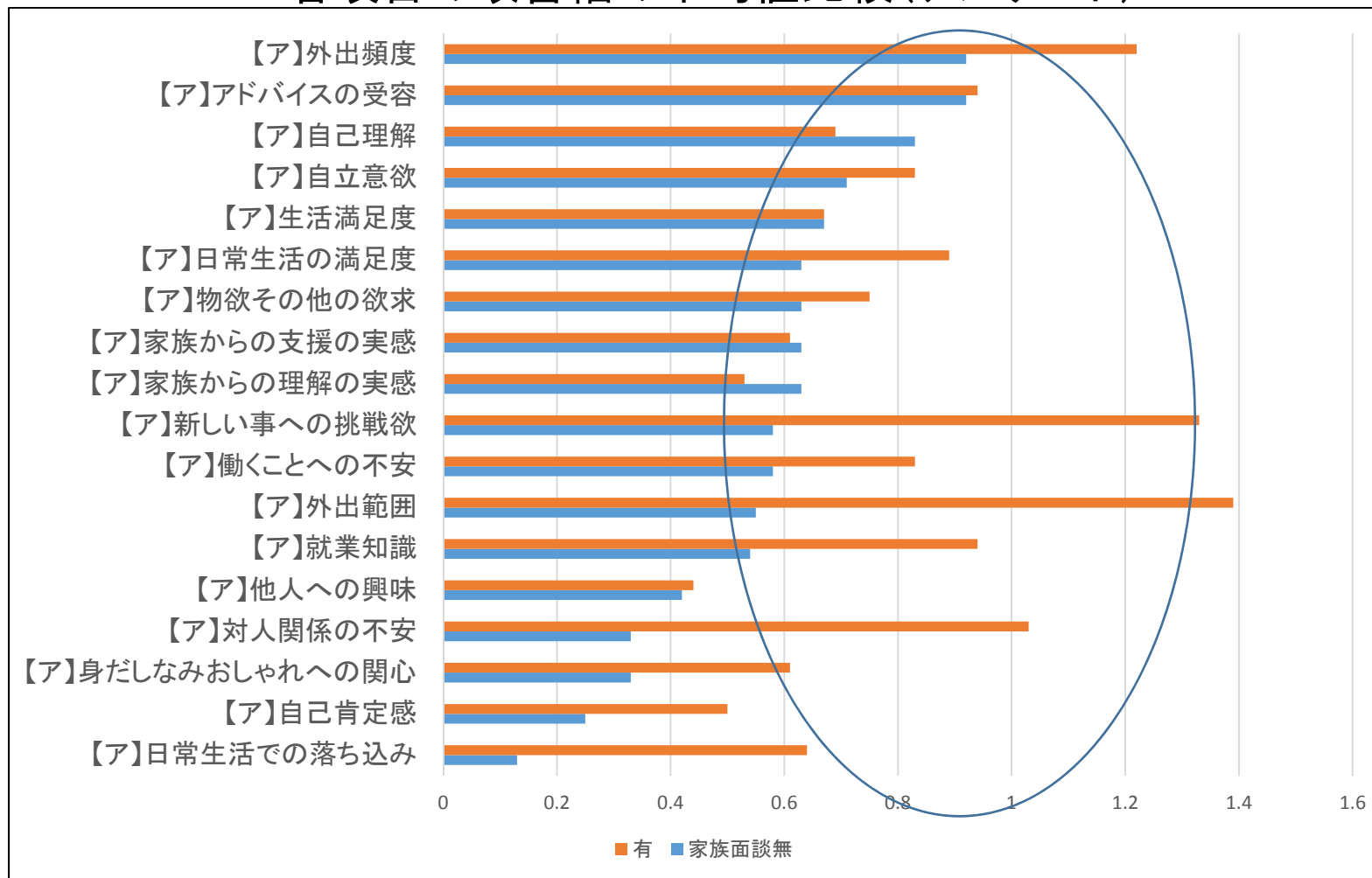
5段階リッカートの平均値を算出。対応のあるサンプルのt検定(両側)を行い、 $p < .001$ \*\*\*、 $p < .01$ \*\*、 $p < .05$ \*とした。

## 10. データ分析結果 ③家族支援有無分析 (With-Without分析)

▶家族支援の有無によって、改善幅に差が現れる項目が判る。

▶外出頻度や範囲、生活満足度などの差は、家族の理解による本人の活動意欲が向上した結果ではないか。

各項目の改善幅の平均値比較(アンケート)



## 11. まとめ①

### データ分析から見たこと

- 支援前後(before-after分析)での改善傾向は全般的に明らかであったが、項目によってその幅は差異があった。同内容の項目においても、クラウド(第三者評価)とアンケートの間で差異があり、データ抽出の方法と項目の選定には再検討が必要だと思われる。
- 外出範囲や機会、他者との会話の頻度など、支援機関につながり、「ひきこもりの解消」ができた事による、「具体的な行動・生活」の改善については特に顕著に見られた。
- 一方で、対人関係や将来への不安は継続している傾向があり、状況や生活の改善が直ちに本人の不安解消にはつながらない事が判った。

### 家族支援の有効性について

- 有意差が認められた項目については、いずれも家族関係の好転、本人の活動に対する家族の理解度が高まった事による本人の精神的負担の軽減などが、本人の能動的・積極的な行動、改善に繋がったと考えられる。
- 家族面談が効果的である層のイメージとして、「対人関係への不安」が強く、日常的に「落ち込みやすい」事により、「新しい事への挑戦」に中々踏み出せない若者、が見えてきた。これらに関しては、現場的な実感もある。

## 11. まとめ②

### 課題

- 評価の設計書であるロジックモデルやインパクトマップ作成の段階で、抽出するデータや分析内容などを落とし込みきれておらず、調査が進んだ段階での苦労が大きかったこと。
- ⇒With-withoutの設定や、クラウドとアンケートの設問項目の整合性など。また、クラウド、アンケート共に初回来所時を遡っての調査となった為、before-afterの差が出るのはある程度当然であると言える。
- 今回、家族支援のwith-withoutを「家族面談の有無」で確認した為、K2が行っている「家族支援」全般に対する検証は行なっておらず、またいずれも各ケース毎に、繋がった経緯や困難度、障害の有無などが異なる為、抽出したデータや分析の検討が不十分であると考えられること。
- ⇒そもそも家族の理解があるケースが、面談・支援に繋がっている可能性もある。

## 11. まとめ③

### 本評価の振り返り

- 最初から最後まで、伴走者の存在は必要不可欠であった
- どういうデータを集めるのか、どうやって集めるのか、集めたデータで何を把握、確認するのか、といった設計部分においては、なるべく時間をかけて、丁寧につくる必要がある。またこの部分においては、専門的な知識が必要だった。
- 何度も、「社会インパクト」とは何か、「社会インパクト評価」とはどういう事かという疑問に立ち返った。評価の過程で学びや気づきもあり、活用の価値も見出したが、社会的企業に普及していく為には、もう少しわかりやすい動機づけや明確なイメージがあると良いかもしれない。

## 11. まとめ④

### 事業へのフィードバック

- 抽出・蓄積していくデータの再検討が出来た。特にクラウドシステム内の項目に関しては、既に修正が行われており、今回の調査と同内容の調査を定期的に行う事が可能。ただし追加修正が必要な項目もある
- ロジックモデルやアンケート作成の過程の中で、現場の感覚でしか無かったものを言語化、可視化することができた
- プログラムの効果と共に、家族への面談や勉強会などへの参加促しが、本人の自立への後押しになる事の実感が持てた。また、家族支援が特に有効な層がある程度見えたことにより、現場のアセスメントの判断材料が増えた

### ステイクホルダーに対して

- 家族、支援者、自治体、行政に対して、今回の調査結果や評価内容をまとめ、改めて、若者支援において本人や家族がたどるプロセスや、それに合わせてK2が実施する支援内容や期待される効果を伝える機会を設けたいと考えている
- ⇒ 冊子の作成、ステイクホルダーMTの実施

### 今後の展望

- 今回、最後に行った家族主体のロジックモデル作成の為のワークショップの中で、最終インパクトとして「家族の社会化」というキーワードが出た。一言で説明するのは難しい言葉だが、非常に納得のある、家族の目指すべき姿であるとスタッフそれぞれが感じており、改めてこの部分に焦点をあてて、評価を実施したい。